

平成26年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業報告書
(障害者自立支援機器等開発促進事業)

平成27年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

I. 本編	1
1. 目的	1
2. 事業内容	1
(1) 「シーズ・ニーズマッチング強化検討会議」の設置	1
(2) 「シーズ・ニーズマッチング交流会」の開催	2
(3) 「平成26年度障害者自立支援機器等開発促進事業」成果報告会の開催	2
(4) 「シーズ・ニーズマッチング強化事業」事業報告書の作成	3
3. シーズ・ニーズマッチング強化検討会議	4
(1) 検討事項	4
4. 実施経過	5
5. シーズ・ニーズマッチング交流会の実施結果	6
(1) 開催日	6
(2) 開催場所	6
(3) 参加した団体及び出展企業の数	7
(4) 講演・シンポジウムの演者	7
(5) 来場者の状況	8
(6) 交流会の会場	9
(7) 参加した障害当事者団体	10
(8) 参加出展した企業	12
(9) 交流会の狙いと工夫したこと	31
(10) 交流の様子	33
6. 講演・シンポジウムの概要	41
(1) 自立支援機器開発に対する期待と役割について	41
(2) 3Dプリンタが拓く新たな支援機器デザインの可能性	44
(3) 自立支援機器を活用した活動と参加	48
(4) シンポジウム「開発・市販化に向けての苦労話と参加」	53
7. シーズ・ニーズアンケート調査の実施について	55
8. 交流会後のマッチングコーディネートの進捗例	60
9. 交流会後に頂いた当事者団体からのメッセージ	61
10. 検討委員会における主な意見	62
(1) 交流会を通じて	62
(2) 来年度の方策について	62
(3) 全体的な視点からの意見	63
11. ホームページの開設	65
(1) 「シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト」の構築	65
(2) 出展機器一覧の掲載	66
(3) 出展機器一覧データベース	66
12. 本事業を終えて	67

Ⅱ. 資料編	69
1. 出展要綱	70
2. 交流会プログラム	77
3. 交流会の出展した機器一覧	85
4. シーズ・ニーズマッチング強化事業の実施について	97

I. 本編

1. 目的

障害者の自立を支援する機器（以下「障害者自立支援機器」という。）の開発については、障害者自立支援機器等開発促進事業により開発を行う企業に対して、実用性評価の支援など適切な支援を進めてきたところであるが、開発された機器の中には、障害者のニーズを的確に捉えたものとなっていない実用性の低い機器も見受けられるところである。

このため、本事業は、民間企業等、学術団体等の研究機関及び障害当事者の知識・技術を結集し、個別具体的な障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設けるとともに、開発中の機器について、実証試験の場を紹介すること等により、機器開発分野への新たな企業の参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図ることを目的とする。

※）「平成 26 年 9 月 30 日付、各都道府県知事宛、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知」から抜粋

2. 事業内容

（１）「シーズ・ニーズマッチング強化検討会議」の設置

本事業の実施にあたり、障害当事者の団体や組織団体、在宅の障害者を支える事業所、企業団体、研究開発を支援する政府系機関、研究所・有識者等の関係者から構成する「障害者自立支援機器シーズ・ニーズマッチング強化検討会議」を設置した。

シーズ・ニーズマッチング強化検討会議 委員名簿

（委員）

（敬称略・五十音順）

氏 名	所 属
○諏訪 基	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問
鈴木 孝幸	社会福祉法人 日本盲人会連合 副会長
妻屋 明	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 理事長
川井 節夫	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事
川田 功二	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国身体障害者施設協議会研修・全国大会委員長、常任協議員
森 祐司	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 常務理事
石崎 洋子	NPO法人 生活サポートみらい 相談支援専門員
石田 眞	NPO法人 メッセージ花くじら 理事長
金井 光一	NPO法人 チャレンジド・コミュニティ 理事長
清水 壮一	日本福祉用具・生活支援用具協会 専務理事
小野 栄一	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部 部長
井上 剛伸	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 部長

○印：委員長

(オブザーバー)

(敬称略・五十音順)

氏 名	所 属
中西 博	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部 プラットフォームグループ 主幹
野尻 誠	独立行政法人 情報通信研究機構 産業振興部門 情報バリアフリー推進室 室長
齋藤 仁夫	独立行政法人 科学技術振興機構 産学連携展開部 企画課 課長
東 祐二	厚生労働省 老健局 振興課 福祉用具・住宅改修指導官
阿部 英紀	経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
廣瀬 秀行	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官

(2)「シーズ・ニーズマッチング交流会」の開催

各種障害の内容や障害者の置かれている状態を十分に理解するとともに、就学や就労、リクリエーションやスポーツ等、活動や参加を行うに際してのお困り事や課題の把握と開発者や研究者がもつシーズとのマッチングを図るため、シーズ・ニーズマッチング交流会を開催した。

- ・日時 平成27年3月6日～7日 10時～16日
- ・場所 TOC有明 4階 コンベンション

(3)「平成26年度障害者自立支援機器等開発促進事業」成果報告会の開催

採択企業11社に上記(2)の交流会に参加していただき、開発機器の一般公開を併せて行った。

厚生労働省から補助を受けて開発している企業 11企業

- ・株式会社ミハマ
- ・株式会社ルミナスジャパン
- ・日本精工株式会社
- ・株式会社ゴビ
- ・株式会社アイセック・ジャパン
- ・ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
- ・株式会社マイクロブレイン
- ・株式会社オリィ研究所
- ・株式会社今仙技術研究所
- ・株式会社日本アシスト
- ・株式会社ソキエ

- (4)「シーズ・ニーズマッチング強化事業」事業報告書の作成
本事業の実施結果を事業報告書として取り纏めた。

3. シーズ・ニーズマッチング強化検討会議

(1) 検討事項

交流会の開催にあたり、出展者（障害者団体、開発支援機関、機器開発企業）の選定や会場設営、運営方法など、活発な交流を促すための方策について検討を行うとともに、交流会後のフォローアップ及び来年度以降の課題や抱負について協議することとした。

①第1回 検討会議 平成27年2月6日 主婦会館 14時～16時

(報告事項)

◇シーズ・ニーズマッチング強化事業の実施について

- | | | |
|---|---|---|
| (| ・交流会フロアレイアウト（案）
・出展要綱（一般応募版）
・出展希望事業者等一覧（2月5日現在）
・セミナーのプログラム（案）
・交流会開催チラシ（2月5日現在） |) |
|---|---|---|

◇委員等による活動報告及び交流会に対する期待等

(検討事項)

◇交流会後のフォローアップ体制等について

◇マッチング交流会参加者アンケートの主要項目について

◇今後のスケジュール

②第2回 検討会議 平成27年3月16日 主婦会館 15時～17時

(報告事項)

◇シーズ・ニーズマッチング強化事業の報告について

(検討事項)

◇交流会後のフォローアップ及び来年度の方策、抱負

4. 実施経過

事業の実施経過

検討項目等	11月	12月	1月	2月	3月
1. 事業計画の策定					
2. 各団体への協力依頼					
3. シーズ・ニーズマッチング強化検討会議の設置・開催					
○委員委嘱					
○第1回会議の開催				★ 2/6	
○第2回会議の開催					★3/16
4. シーズ・ニーズマッチング交流会の開催					
○開催周知、ホームページへ掲載					
○障害者団体の出展調整					
○開発支援団体の出展調整					
○出展企業の募集					
○専用サイトの開設				★	
○交流会の開催					3/6, 7
○アンケート調査の実施					3/6, 7
○出展機器の情報提供					
5. 事業報告書の作成					

5. シーズ・ニーズマッチング交流会の実施結果

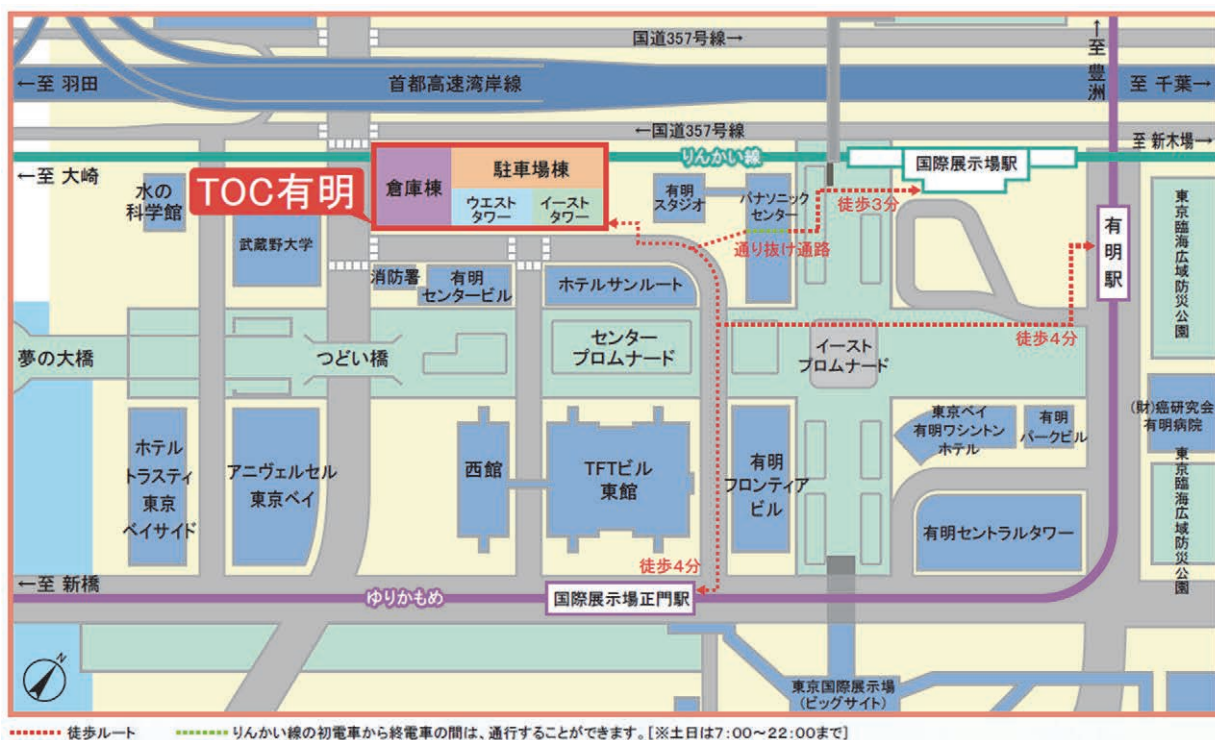
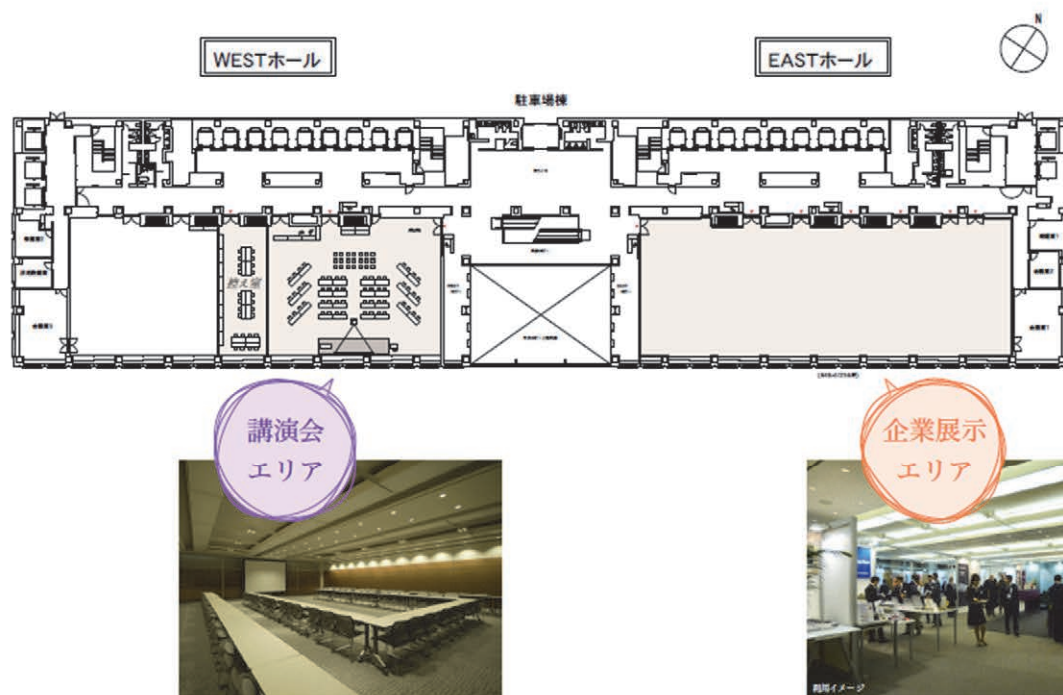
(1) 開催日

平成27年3月6日(金)～7日(土) 10時～16時

(2) 開催場所

TOC有明 4階 コンベンションホール

TOC 有明コンベンションホール 4F 展示会全体レイアウト図



(3) 参加した団体及び出展企業の数

- ・ 障害者当事者団体 11 団体
- ・ 機器開発企業 62 企業 (うち厚労省採択企業 11 社)
- ・ 開発支援機関 6 団体

(4) 講演・シンポジウムの演者

(敬称略)

①基調講演「自立支援機器開発に対する期待と役割について」

日本作業療法士協会 会長 中村 春基 氏

②基調報告「3Dプリンタが拓く新たな支援機器デザインの可能性」

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ・ 3Dプリンタと支援機器～個人利用から生産技術まで～ | 硯川 潤 氏 |
| ・ 3Dプリンタの義肢装具への応用可能性 | 中村 隆 氏 |
| ・ デジタル生産技術：DDMで広がる超ユニバーサルデザイン | 高嶋 淳 氏 |

③現場報告「自立支援機器を活用した活動と参加」

- | | |
|---------------|---------|
| 自閉症サポートセンター | 松井 宏昭 氏 |
| チャレンジド・コミュニティ | 金井 光一 氏 |
| 生活サポートみらい | 石崎 洋子 氏 |
| メッセージ花くじら | 石田 真 氏 |

④シンポジウム「開発・市販化に向けての苦労話と成功事例」

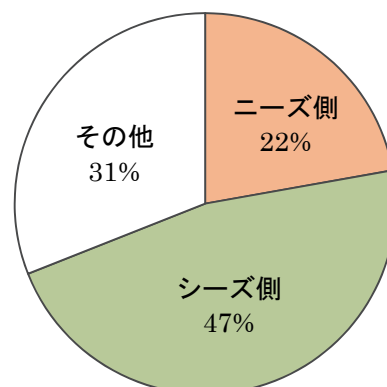
【座長】国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問 諏訪 基 氏

- | | |
|---------------------------|---------|
| (厚労省採択企業) 株式会社アドバンスト・メディア | 中村 雅巳 氏 |
| (NEDO採択企業) 株式会社スマートサポート | 鈴木 善人 氏 |
| (NICT採択企業) 株式会社SOBAプロジェクト | 乾 和志 氏 |
| (前テクノ採択企業) セコム株式会社 | 石井 純夫 氏 |
| パナソニックエイジフリーライフテック株式会社 | 松尾 光晴 氏 |
| 日本電気株式会社 | 北風 晴司 氏 |

(5) 来場者の状況

来場者数集計（出展者は除く）

種別		人数	割合	人数	割合
ニーズ側	a. 障害当事者	98 名	22.2%	51 名	11.5%
	b. 当事者家族			14 名	3.2%
	e. 障害団体			33 名	7.5%
シーズ側	c. 開発企業	207 名	46.8%	159 名	36.0%
	d. 研究機関			48 名	10.9%
その他	f. 行政	137 名	31.0%	23 名	5.2%
	g. その他			113 名	25.6%
	不明			1 名	0.2%
来場者合計		442 名			



※g. その他・・・福祉用具製造・貸与・販売、事業者団体、医療関係者、学生、大学関連、マスコミ関連、シンクタンク等

事前に聞いた興味のある開発対象分野（複数回答可）

興味のある開発対象分野	回答数	割合
肢体障害者の日常生活支援機器	117	22.0%
障害児の生活を豊かにする支援機器	106	19.9%
障害者のコミュニケーションを支援する機器	91	17.1%
聴覚障害者の日常生活支援機器	63	11.8%
視覚障害者の日常生活支援機器	56	10.5%
障害者スポーツ用機器	51	9.6%
盲ろう者の日常生活支援機器	34	6.4%
その他	15	2.8%

来場者がどこから来られたか？（住所が分かる来場者 284 名の内訳）

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	1 名	新潟県	3 名	大阪府	6 名
宮城県	3 名	富山県	1 名	兵庫県	3 名
山形県	2 名	石川県	4 名	奈良県	1 名
茨城県	12 名	山梨県	1 名	岡山県	1 名
栃木県	4 名	長野県	6 名	広島県	3 名
群馬県	6 名	岐阜県	3 名	福岡県	2 名
埼玉県	21 名	静岡県	6 名	長崎県	1 名
千葉県	10 名	愛知県	12 名	熊本県	1 名
東京都	120 名	滋賀県	1 名	鹿児島県	1 名
神奈川県	48 名	京都府	1 名	合計	284 名

(6) 交流会の会場

障害当事者の団体を中心に配置し、当該障害に関連する支援機器の開発メーカーが回りを取り囲み交流が活性化するように不規則に配置した。

また、その外縁を国及び開発を支援する機関等が取り囲む形をとり、下記のAからNのテーマに区分したレイアウトを行った。



(7) 参加した障害当事者団体

本交流会への参加を要請した障害当事者の団体及びその概要は以下のとおりである。

団体名称	概要
A 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	1958年創設全国の障害者団体の組織活動の推進、障害者の保健・福祉の増進、社会活動への完全参加と平等の実現を目的とし、全国62都道府県・指定都市の障害者を中心とする当事者団体と社団法人日本オストミー協会、社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の計64団体をもって構成している。
B 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会	1959年創設「重い障害があっても普通に暮らせる社会」を目標に全国各県・支部と共に、障害者のための社会環境を変える活動を行っている。
C 一般社団法人 日本ALS協会	1986年創設「ALSと共に闘い、歩む会」として、患者と家族を中心に、遺族・専門医・医療関係者や一般有志が集まり設立されたALS患者の療養生活の向上と治療法の確立を目的とした活動を行っている。
D 社会福祉法人 日本盲人会連合	1948年創設都道府県・政令指定都市における61の視覚障害者団体の連合体で、国や地方自治体の視覚障害者政策一人権、福祉、教育、職業、環境問題等一の立案・決定に際し、視覚障害者のニーズを反映させるため、陳情や要求運動を行っている。
E ろう・難聴教育研究会 NPO法人 ろう教育を考える全国協議会 国立大学法人 筑波技術大学	ろう・難聴者やろう教育を行う者への教育の在り方を研究する各種団体が共同で出展した ・ろう・難聴教育研究会 1975年に「利用可能な全ての手段を使って100%のコミュニケーションの実現を目指す」トータルコミュニケーションの理念と実践の報告に衝撃を受け、まだ口話主義の考え方が支配的な日本のろう教育の変革をめざし「ろう教育に手話を」の実践と運動を行いつつあった有志が集まって発足ろう教育の変革という目標に向けて活動を行っている。 ・NPO法人 ろう教育を考える全国協議会
F 社会福祉法人 全国盲ろう者協会	1991年創設全国の盲ろう者の福祉を目的とする唯一の社会福祉法人として、一人でも多くの盲ろう者が自立できるように、また、自立の難しい盲ろう者も、働く喜び、仲間と語らう喜び、その他種々の喜びを味わうことができるように援助することを目的として活動している。
G 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	1991年創設全国の難聴者・中途失聴者（以下「難聴者等」という）に対する施策の充実普及のための諸事業を行い、難聴者等に対する社会の理解を促進させるとともに、難聴者等のコミュニケーション手段等に関する調査研究等を行うことにより、障害者の社会的地位の向上と福祉の増進及

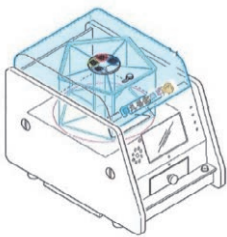
団体名称	概要
	び社会参加の促進に寄与することを目的として活動している。
H ポリオの会	1995年創設ポリオとPPS（ポリオ後症候群、ポストポリオ症候群）についての医療情報を求めるとともに、ポリオ体験者が手をつないで自分達の体験や症状をまとめて伝えていくことなどを目的に結成東日本を中心として、沖縄から北海道、アメリカ、イギリスまで広がり、お互いに有益な情報を求め、医療機関に働きかけ、励ましあって、会員一人一人ができることで会運営を支える体制で、緊密に協力し合って活動を行っている。
I NPO法人 自閉症サポートセンター	千葉県柏市を中心に、自閉症をはじめとした発達障害のある人を対象に、様々な活動を行う 平成26年4月から社会福祉法人青葉会に統合され、更に力強く活動を行っている。

(8) 参加出展した企業

本交流会へ参加した企業及び出展機器の概要は以下のとおりである、企業はそれぞれA～Iのいずれかのエリアに区分し配置することとした。

エリア	出展企業	出展機器
A-01	株式会社今仙技術研究所 ＜厚労省事業＞	○スポーツ用義足 KATANA-R 本格的な競技までは望まないがスポーツレクリエーションへのモチベーションがある義足ユーザに向けた、モジュール型義足パーツ。幅広い調整機能を持つ。 
A-02	川村義肢株式会社 東京本社 ＜NEDO事業＞	○肩サポート CVDの肩関節亜脱臼に対する疼痛軽減のための肩装具。一人で装着しやすいベストタイプ。 
A-03	有限会社さいとう工房 ＜NEDO事業＞	○多機能型電動車椅子 レル・ライト 従来の電動車椅子の1/4程の面積で旋回し、狭い室内でも使用可能。また段差も上がり易く、斜めからでも上られる機構を採用。 
A-04	株式会社スマートサポート ＜NEDO事業＞	○スマートスーツ 後背部に配置された弾性体の力により、上半身前屈時、すなわち中腰姿勢の際に最適な上半身の引き起こし効果(アシスト)と腹部を引き締める体幹安定化効果(コルセット)のふたつの効果を同時に得ることが可能な軽労化スーツ。情報ロボット技術を活用した対象作業の動作分析を行い、適切な配置、弾性力を設計し、作業を妨げることなく、着心地に優れる。 

エリア	出展企業	出展機器
A-05	ダイヤ工業株式会社 ＜NEDO事業＞	○パワーアシストグローブ 空気圧人工筋を搭載した手指の握る、開く動作をアシストするグローブ。握力を約2kg程度アシストする。日常生活、トレーニング目的での使用を想定。 ○Finch 軽量で簡易に使用できる電動義手。ソケット部の製作不要で大幅な低コスト化、短納期を実現。また、センサは筋電ではなく筋肉の隆起量をセンシング。形状、デザインは機能性を考慮した3指形状で、重量300g、500g程度の出力を発生。 
A-06	株式会社アイ・レーベル	○サドル付歩行器 AR-555 座って歩く歩行器。転倒の心配もなく歩行訓練ができる。歩行困難な障害児が自分の意思で動く移動を経験することにより、子どもの認知面と社会性の発達を促す補助機器を目指して開発。 
A-07	株式会社ソフトシーデシー	○体動センサ リアルタイムで装着している方の見守りが可能（心拍数、体温、3軸加速度による状態変化）。一度に複数の方を見守ることも可能（心拍の乱れや、転倒時にアラートをならすなど）。 

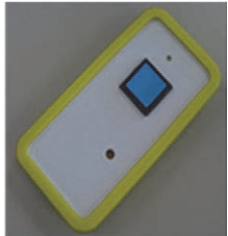
エリア	出展企業	出展機器
A-09	ナブテスコ株式会社	○四節リンク電子制御義足膝継手 世界初の四節リンク機構の油圧電子制御膝。四節リンクによりつまづき難く、また万が一つまづいた場合もマイコンが異常を検知して油圧抵抗を高め安全を確保。 ○油圧ブレーキ付き電子制御義足膝継手 階段の交互下りが可能な電子制御膝。充電不要で電池寿命が2年間。 ○抑速ブレーキ付き前腕支持型歩行車 急加速時に自動でブレーキが働く安全装置付きの歩行車。坂道などで不安がある方やハンドブレーキをしっかりと握れない方などに最適。 
A-09	日本セイフティー株式会社	○ラップポン・エブリ バケツ洗浄のいらない自動ラップ式のトイレ。凝固剤を入れて排泄を行い、ボタンを押すと熱圧着により個包装される。個包装されるのでお部屋に臭いが残らずバケツ洗浄も不要。 
A-10	株式会社プロップ	○見える化薬箱 時間通りに服薬を促し、服薬情報を記録し、一元管理できるシステム。あらかじめ服薬時間を設定し、時間になったら、音楽及び音声で服薬を促し、服薬完了したら、カラを回収し服薬した時間を記録して、携帯情報端末を介して、パソコン上で閲覧できるシステム。 

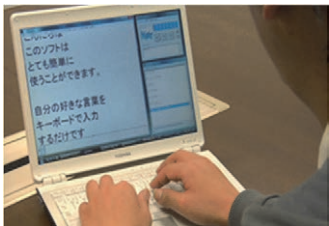
エリア	出展企業	出展機器
A-11	株式会社ミツバ	○立上り補助機能つき歩行器 デザイン性を重視した一軸タイプの新型モーターを装着し、肘置き部分の電動昇降を可能とした歩行器。 ○電動移乗器 新開発した一軸タイプの新型モーターを2本使用し、ベッド等から車椅子等への移乗をサポートする場所を取らない簡易的な移乗器。 ○電動つえ 新開発したインホイールタイプの薄型駆動ユニットを使用した動くつえ。 
A-12	株式会社JINRIKI	○着脱式車いす補助装置 新型JINRIKI QUICK 今お使いの車いすに装着し、軽い力で前輪を浮かせて、けん引が可能。坂道はもちろん段差や積雪・砂利道・ぬかるみなどの押すだけでは移動が困難な様々な悪路で驚くほどスムーズな移動を可能にする。 
A-13	株式会社ミハマ ＜厚労省事業＞	○介護リフト型歩行アシスト 住宅の自立支援を目的に、歩行移動を介助。 
B-01	株式会社日本アシスト ＜厚労省事業＞	○ロボット便座 温水洗浄後のトイレトペーパーによる臀部ふき取りを必要としない介護ロボット便座。身障者がいつでも自分の意志でトイレに行ける自己完結な環境を提供。

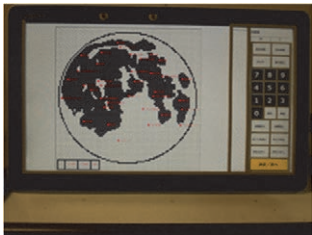
エリア	出展企業	出展機器
		
B-02	株式会社ルミナスジャパン <厚労省事業>	○力伝達型アクティブギプス 上肢に障害があり車椅子操作等に不便がある方を対象に残存する筋力を有効に使う事を可能とする装着型の装置。装置を使用する事で日常動作を支援するだけでなく、使用者自身の身体能力の維持・向上が期待できる事を目標に開発中。 
B-03	株式会社アグメント	○ステップ昇降車いす ステップ部が上下することで足載せ動作を不要とし、載せ忘れ防止も期待できる車いす。車体前部横のフレーム張り出しがなく移乗も容易にできる。ブレーキかけ忘れによる転倒防止効果もある。 ○座面昇降車いす 座面が昇降し、起立／着座時の動作をアシストする車いす。昇降時も使用者が不安定になりにくい座面角度に設定。電源不要で折りたたみも可能。 
B-04	横浜ゴムMBジャパン株式会社	○除圧機能付車いす用空気式クッション メディエア 世界初となる全自動除圧機能付車いす用空気式クッション。床ずれになりやすい部分のエアセルには、センサーがあり、底付き手前を検知して自動でエアを加圧する。

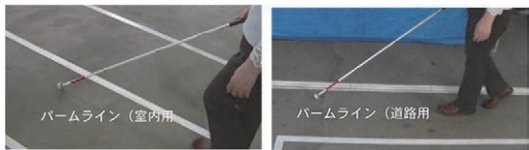
エリア	出展企業	出展機器
		除圧と加圧を繰り返す事で、プッシュアップ効果が得られ床ずれを予防。エアースルは取り外し可能で、使用者に合わせてカスタマイズが可能。廉価版のメディエアスカイは手動式。 
C-01	株式会社オリィ研究所 <厚労省事業>	○OriHime(視線操作型) 分身ロボットを通して、患者の視線や生体反応を用いながら意志・感情の伝達や、合成音声での発話を可能にしたコミュニケーションデバイス。機体にはカメラ、マイク、スピーカーなどが搭載されており、患者側はプロダクトを通して置かれている場所の状況などを確認することができる。 
C-02	有限会社オフィス結アジア <NEDO事業>	○指伝話(ゆびでんわ) シリーズアプリ ○指伝話2ME(アダプタ) 喉頭摘出や四肢麻痺で構音障害のある方、失語症患者、ALSの患者さんらの代替コミュニケーション手段として活用されているiOSアプリ。流暢な合成音声と、文字、絵や写真などと組み合わせたシンプルなインターフェースが特徴。指伝話2MEは、指伝話アプリと組み合わせて使い、電話の相手に声を出さずに音声を伝えるためのアダプタ。基本は指でタップして使用するが、運動機能の障害などでそれが難しい方にも使える仕組みを、現在NEDOの支援を受けて開発中。 

エリア	出展企業	出展機器
C-03	株式会社ウェルパートナーズ	○介護リフト スマイル 手動式でコンパクトなリフト。スリングを敷きこむ手間が無くトイレ介助に最適。既存の物より本体ベースを低くしたので低床ベッドにも対応でき、リフト時の角度も無段階で調整出来る。 
C-04	株式会社スマイル介護機器販売(出展支援:ロート製薬株式会社)	○自動排泄処理装置 スマイレット安寝(改良型「本体」と「カップ」) 便と尿が共に自動処理可能な「自動排泄処理装置」。現在、さまざまな体型や排泄状況の方に広くご利用いただけるよう「カップ」などを開発中。 
C-05	テクノツール株式会社	○なんでもワイヤレス パソコン、アンドロイドタブレット、iPadなどへ外部スイッチ入力をするワイヤレスインターフェース。 ○上肢装具MOMO 腕を支え、水平方向の動作を楽しんだり、肘を曲げて手を口元付近まで持っていきやすくする上肢装具。 

エリア	出展企業	出展機器
C-06	パナソニックエイジフリーライフテック株式会社	○意思伝達装置レッツ・チャット 言語障害と上肢障害の両方の障害を持つ方が、身体のわずかに動く部位に合わせた入力スイッチ1つを使い、ON/OFF だけの簡単な操作で自分の意思を伝えることができる意思伝達装置。会話に加え、呼出しコール、テレビリモコン、音声時計を備えている。これらの機能をマイコンで実現することで軽快で安定した動作を実現させた。さらに全ての動作に音声ガイドがあることから言語障害と上肢障害に加え、視覚障害があっても利用できる。 
C-07	パシフィックサプライ株式会社	○スイッチアジャスター／コネクトコール 重度障害者用意思伝達装置の呼び鈴と呼び鈴分機器。機能を改良し、従前の利用者以外にも在宅で生活されている方に使いやすい機器を開発中。  
C-08	有限会社パムック	○人工呼吸器搭載型車いす各種 重度障害者向けシーティング機能を重視した車いす ○シーティング機器各種 多機能型電動車いす座位保持搭載型
C-09	株式会社ヒューマンテクノシステム	○自分の声ソフトウェア ボイスター 特定個人の声で、任意のテキストを音声とし出力する音声合成システム。声を失われる方へ、失声後の代用音声などにご利用いただけるようご提供。「自分の声」という重要なアイデンティティを維持することで、失声後のQOL確保に貢献。現在は、ユーザの利用形態によりマッチするために、携帯化などの改良に取り組む。

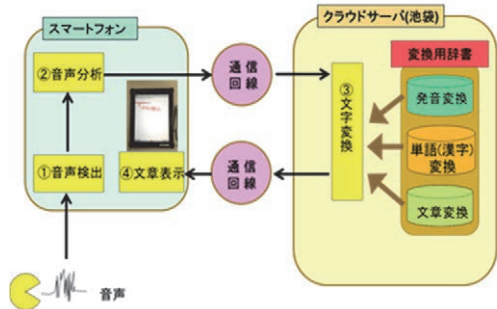
エリア	出展企業	出展機器
		
C-10	株式会社日立ケーイーシステムズ	○重度障害者用意思伝達装置「伝の心」 筆談、発話ができない重度障害者のコミュニケーションを支援する機器。 
C-11	事業主代表 宮内唯	○Gazespeaker 市販のPCとアイトラッカーに本ソフトウェアを組み合わせることで、今までは非常に高価だった視線入力による意思伝達システムを非常に安価に構築できる。 ○Click2Speak 市販のPCとアイトラッカーに本ソフトウェアを組み合わせることで、PCの殆どの操作ができるうえ、文字入力においては大変高度な予測変換システムを搭載しているため、文字入力の負担を大きく軽減できる。 
D-01	日本精工株式会社 ＜ 厚労省事業 >	○視覚障がい者向けガイダンスロボット 病院などの施設内において対象ユーザを案内するロボット。(障害物回避)複数センサの組み合わせによりユーザ前方の障害物回避、段差での転落防止。(ナビゲーション)目的地を入力するとロボット内地図とセンサで検出した地図を照合しながら目的地まで誘導。

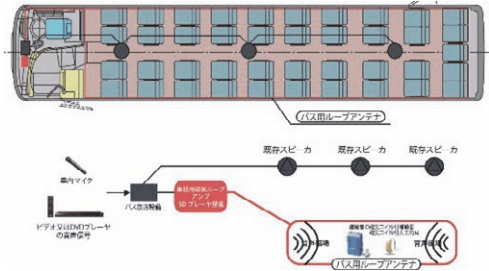
エリア	出展企業	出展機器
		
D-02	株式会社画像聴覚化研究所	○画像聴覚化装置 異なる波長の音をもって上下座標を感知し、左右座標は音の到達時差(ステレオ)を感知し前面の音源定位を図る装置。個々の音を順次聞いて形状をイメージし、濃淡は音の大きさで識別する。特許技術の製品化を目論む。画像に加え、画面に触れて音声ガイドを聞くことができるため、点図に比べ格段に多い情報量を提供することができる。各地のモニター体験会を通して視覚障害者から画期的な装置であるとの評価を得ている。 
D-03	一般社団法人日本電子出版協会 ビジネス研究委員会	○音声付き電子書籍の新業務フローとEPUB/TTS 電子書籍の音声読み上げを実現するために、制作段階でどのように音声情報を付加し、制作コストを下げるかの研究。
E-01	株式会社ゴビ <厚労省事業>	○視覚障害者歩行支援用電子点字ブロック 従来の点字ブロックの凹凸をなくし、ICタグを内蔵したシート。足元に装着したICタグリーダーがICタグを読み取り、バイブレーションで踏んでいることを伝えるとともに、読み取ったIDから位置情報を得て、スマートフォンの音声等で居場所に合わせた情報提供を行う。 

エリア	出展企業	出展機器
E-02	株式会社KOSUGE	○振動発電により LED 点滅点灯する白杖 電池なしで、視覚障害者が白杖を突いた時の衝撃により白杖に取り付けたLEDを点滅点灯させる白杖。照明の無い所等の夜等に歩行している視覚障害者に対する視認性を向上させる。昼間で、杖の白色だけでは目立たない場合にもLED点滅点灯させることにより、目立たせることができる。 
E-03	有限会社テイクス	○パームライン 溝付き白線。突起より白杖で分かりやすい溝で、誘導しやすく車いすなどに優しい段差。低コストなので、広く設置できる。A 室内用は塩ビ製。B 横断歩道などの道路用は溶融塗料。 
E-04	株式会社テックアイオーサービス	○ポータブル紙幣識別機「Wallet」 Wallet(財布)のように使える紙幣識別機。 ・置くだけで簡単に充電可能 ・落下防止にもなる滑りづらく手触りの良いソフト素材 ・オプションで電子マネー残高の読み上げが可能 
E-05	株式会社西澤電機計器製作所	○拡大読書器 NVS-X1 視力の弱い人が書籍や新聞などの小さな文字や画像を拡大して見ることができる拡大読書器。縦書き横書きにも対応した可動式テーブル、使い勝手がよくコンパクトサイズ。倍率、カラーモードなど操作状況を音声で知らせるガイド機能付き。操作性に優れた操作パネルで、日本の住環境に最適。

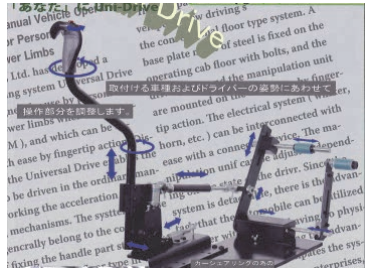
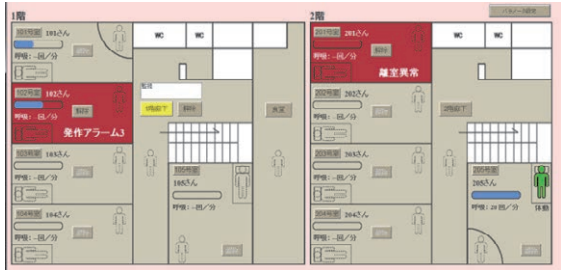
エリア	出展企業	出展機器
		
E-06	特定非営利活動法人日本視覚障がい情報普及支援協会	○音声コードUni-Voice 印刷物のテキスト情報を音声コードUni-Voice(2次元コード)に収録。読取専用機、携帯電話、スマートホンのカメラ機能で読取、テキスト表示、音声で読上げするシステム。外国人向けに多言語サービス及び聴覚障害者向けに手話動画を配信することも可能。 
E-07	パナソニック株式会社	○液晶テレビ、BDレコーダー、ICレコーダー ・音声読み上げ機能を搭載。放送局名、番組タイトル、番組表の読み上げ、録画一覧を読み上げ ・音声操作機能を搭載 ・スマートフォンと連携で視聴可能 
E-08	富士電子株式会社	○明暗センサ ボタンを押すだけの簡単操作で今の明るさを音で知らせるセンサ。明るい、薄暗い、暗いの3段階で判別。 

エリア	出展企業	出展機器
E-09	レハ・ヴィジョン株式会社	○カラートークプラス 衣服・物品の色と柄が分かる装置。充てた場所の色が分かる装置は外国製品にも数種あるが、全体が無地なのか？どこに何色があるか？分かる機器は「カラートークプラス」だけ。海外からの引合いが多いが色の表現は各国によって違い対応が必要である。 
F-01	株式会社アイセック・ジャパン ＜厚労省事業＞	○字幕電話 聴覚障害者や高齢者で聞こえに不自由を感じている人が、使いたくても使えない社会インフラが電話である。近年電話リレーサービスとして、手話リレーや文字リレーサービスが出てきているが、話せる聴覚障害者にとっては、自分で話せないもどかしさがあった。字幕電話では、当事者は自分の伝えたいことを自分の口で話すことができ、相手の声は文字で知ることができる。 
F-02	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 ＜厚労省事業＞	○COMUOON (コミュニケーション) 通常補聴器は難聴者個人の聴力レベルに合わせて補正を行い補聴を行うが、本アプリケーションは話者の音声の特性を加味し聴こえやすくした上で補聴をすることがポイントである。75db程度までの難聴者であれば、感音性、伝音声に関わらず聴こえが改善される。 

エリア	出展企業	出展機器
F-03	株式会社SOBAプロジェクト ＜NICT事業＞	○複数情報伝達モードを備えたユニバーサルな電話リレーサービスの提供 パソコンやタブレット、スマートフォンなどで、ろう者と聴者がお互いに相手の表情やジェスチャを直接確認したり、手話や手話通訳者を介したり、または複数の情報伝達モードを用いて、意思疎通を図ることが可能な、気軽に利用できるサービス。 
G-01	株式会社アドバンス・メディア	○音声認識AmiVoiceCloud 汎用品のスマートフォン、タブレット、PC等のIT機器を活用した変換精度の高い音声認識アプリケーション。 
G-02	株式会社日本コクレア	○人工内耳システム一式
G-03	シャムロック・レコード株式会社	○コミュニケーション支援アプリ「UDトーク」シリーズ 音声認識、キーボード、手書きを使って対面でチャットやリアルタイム字幕を作成できる。またいろんなソフトやハードとの連携も視野にいたったオープンな開発環境を提供。 

エリア	出展企業	出展機器
G-04	株式会社ソナール	○難聴者支援用(バス・車両用)車載型ヒアリングループシステム 施設向けが中心であったループを移動体(バス・自動車等)に設置することで、難聴者の社会参加を促進し、生活の利便性が高まる。 
G-05	株式会社プラスヴォイス	○代理電話サービス／遠隔(手話・文字)通訳サービス ○遠隔筆談コミュニケーションアプリ『手書き電話UD』 ○筆談+音声認識コミュニケーションアプリ『UD手書き』 聴覚障がい者のコミュニケーションをICTによってサポートし、一方通行ではなく、聴覚障がい者および健常者の双方がコミュニケーションを取るために必須のサービス／製品となる可能性を秘めている。 
G-06	NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター	○字幕制作ソフト「おこ助Pro」「おこ助Pro3」 ○アプリ「UDCast」 スマホやタブレットPCなどの端末にUDCastアプリをインストールして起動、作品を選択すると、映像の音声透かしとアプリが同期して自動的に字幕や音声ガイドが端末上に流れる。このコンテンツは「おこ助」で作成できる。視聴覚障害者が、映像をより楽しめるように開発された。 

エリア	出展企業	出展機器
G-07	株式会社東京信友	○番号呼び出し器 シルボード 社会の高齢化が進む中、音声による呼びだしに代わる番号呼び出し器を設置することによって聴覚障害者を含め呼び出しを円滑にすることができる。低価格設定により普及を加速できる。オプションの受信器導入でスタッフ呼び出し、緊急通報が可能。 
H-01	株式会社キザキ	○スマートポール 障害者用のポールで、必要以上に歩幅が広がらずスピードが出ないことがスポーツ用との大きな違い。転倒リスクが少なく安全でより正しい歩き方ができる。また、ポールの接地面が非常に大きいため、坂道で足が引っかからず足がポールにぶつかる事も少ない。ポールの長さは自身の身長から適正サイズに調整可能。 
H-02	株式会社スワニー	○Swany Mini（自走用車いす／介助用車いす） 使用時/収納時ともにコンパクト性は世界最小クラス。室内使用を主とした仕様でノーパンクタイヤ標準装備。小回りがきき足置きを跳ね上げることで便座などに移乗しやすく洗面台にも近づける。足で蹴って前後左右に移動可能（リハビリ兼）。 
H-03	タチイス株式会社	○タチイス 立ったまま休憩ができる休憩器具 

エリア	出展企業	出展機器
H-04	あい・あーる・けあ株式会社	ONEWユニドライブ 下肢障害者と健常者のカーシェアを実現し、より多くの下肢障害者の移動の自由を助ける装置。 ・運転席にベースプレートを取付けておくことで、装置本体をワンタッチで着脱可能とした。 ・装置本体を外すことで床面のベースプレートのみとなるため健常者の運転を妨げない。 ・車種や運転者の障害状況、体格に応じてレバーやグリップ位置を調整可能とした。 
I-01	株式会社ソキエ ＜厚労省事業＞	○知的障害者向け見守りシステム 複数の事象を検知可能としたセンサユニットをグループホームなど知的障害者の個室内に設置することにより、介護者が個室内の状況を外部から把握でき、知的障害者が夜間に安心して過ごせるようになるシステム。 
I-02	株式会社マイクロブレイン ＜厚労省事業＞	○はっするでんたー 歯科治療や器具に対して、不安からパニックを起こしやすい発達障害者の特性に併せて、治療の経過説明や器具の説明など丁寧な解説を行い治療の不安を軽減することを目的とした歯科治療の困難を軽減する支援機器。 

エリア	出展企業	出展機器
I-03	株式会社アイエスゲート	○多言語医療問診支援システム ○記憶活性化支援システム 医療現場において、聴覚障害者等が受信する場合、医師とのコミュニケーションが取りづらい状況の中で、タッチパネルで表示された医療問診項目に答える形で問診票の作成が可能。 
I-04	株式会社アクセスインターナショナル	○あのね♪DS 携帯に便利なニンテンドーDSを使ったコミュニケーション支援ソフト。自閉症や発達障害など発語の難しい方に活用されている。 
I-05	株式会社スタンダード	○療育・自立支援用スモック 保育園・幼稚園・特別支援学校等で、給食や図工の時間に衣服の汚れを防ぐ為に着用する「スモック」。知的障害児(者)の自立・療育支援の促進や肢体不自由児(者)の生活利便性の向上の為に有効な留め具(マジックテープ、スナップボタン、ループ、ボタン、ファスナー、ユニバーサルボタン)を使用している。 

エリア	出展企業	出展機器
I-06	株式会社ユープラス	○トーキングエイド for iPad iPadを利用した会話が不自由な方の携帯用会話補助装置。利用者の知的能力に応じて、文字入力で音声を発声するテキスト入力版と絵文字によるシンボル入力版が選択可能。 
K-01	株式会社フィート	○コミュニケーション支援アプリ『こえとら』 定型文の利用と登録ができ、スムーズにコミュニケーションが取れる支援アプリ。複数台の端末を接続して会話が出来ます。健聴者用に音声入力を搭載しております。ネットワークにつながってなくても音声認識が出来るので、災害時などでも使用できるので安心です。 
K-02	独立行政法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所	○SpeechCanvas(スピーチキャンバス) ・主に健聴者が受付などで利用することを想定 ・健聴者から聴覚障がい者への情報提供の支援(音声を文字化する支援)に特化 

(9) 交流会の狙いと工夫したこと

本交流会の目的は、障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出することであり、従来の福祉機器関連の展示会では、障害者と開発者の間の交流を十分に行うことが難しい現状を踏まえ、今回は如何に「使う人」と「作る人」の交流を促すかが焦点となった。このことを達成するため、以下の2点を工夫した。

① 各障害当事者団体からマッチングコーディネーターを選出

障害者の日常生活の様子、当事者団体の活動内容をより多くの人に知ってもらう機会として活用いただき、展示ボードにその旨の情報を掲示していただいた。(写真1)

また、来場者や出展企業との交流促進を図る役割として、各当事者団体から2名、マッチングコーディネーターを選出していただき、当事者と企業、来場者等を橋渡しする調整役を担った。

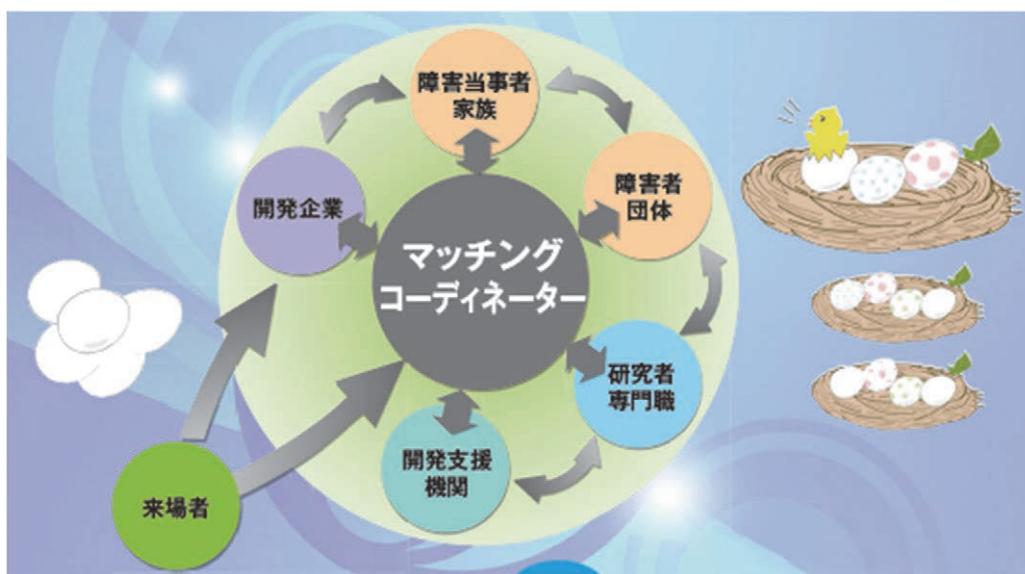


写真1 当事者団体の展示ボード

② 交流しやすい展示エリアの工夫

従来の展示会とは異なり、緩やかな交流を促進すべく展示ブースを不規則に配置し、じっくりと対話していただけるコミュニケーションスペースを十分に確保した。(写真2)

出展企業に関しては、出展物を来場者に試して頂くことでフィードバックを受ける場となった。

しかしながら不規則なブースの配置は、視覚障害者にとっては移動し難いところがあった。

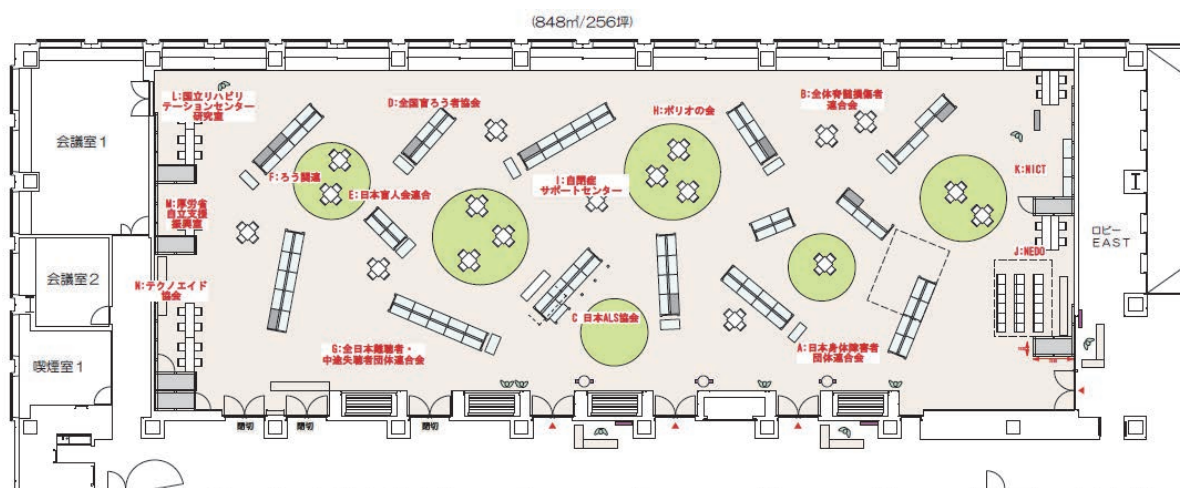


写真2 交流会会場 風景

(10) 交流の様子

各団体及び企業における交流状況は、概ね下記のとおりであった。

各エリアの団体、企業			当日の状況インタビュー
A	団体	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	・ 今回のような講演会、展示会はこれまでにない催しで、とても良いと考える。学生の支援機器開発企画などの併催があったのが特によかった。今後も目標をきちんと定めて、継続していくべきだと思える。 ・ 企業や来場者との交流も、適宜できたと思う。
	企業	今仙技術研究所、川村義肢、さいとう工房、スマートサポート、ダイヤ工業、アイ・レーベル、ソフトシーデーシー、ナブテスコ、日本セイフティー、プロップ、ミツバ、J I N R I K I、ミハマ	・ 「作る人」側で展示されておられる方々や普段中々お話しが出来ない、各業界の重鎮の方々とゆっくりお話しが出来たことが、とても有難かった。 ・ 機器開発に必要なユーザの意見を多く得ることができた ・ 交流会を通して本機器への需要を再確認できた。 ・ 今回参加したことで、他の企業様とコラボ出来るような交流ができた。協力して頂ける企業を探していたので良かった。 ・ 今回の交流会のおかげで、商品を皆様に知っていただく貴重な機会を頂いた。 ・ 他のユニークな福祉機器を開発しているメーカーとも交流する機会を持って、将来の製品開発への刺激とヒントが得られた。
B	団体	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会	・ このような交流会は、長い間待たれていた企画であり、今回ようやく初めて開催となったのは喜ばしいことである。他の福祉機器関連の展示会でも、当事者による機器の品評というのはある程度行われて来たが、今回のように使う側と作る側がじっくりと話す時間を持つことができたのは良かった。 ・ 脊損連合会周辺の出展社機器は、既に世に出ている開発済みのものが多く、本質的な新規機器は見当たらなかった。 ・ 交流会スペースで、行政の方や大学関係者と機器について討論する機会を得た。大変有意義な意見交換が出来た。

各エリアの団体、企業			当日の状況インタビュー
	企業	日本アシスト、ルミナスジャパン、アグメント、横浜ゴムMBジャパン	・ 他の開発企業から、新製品に関して大変貴重なご意見を頂いた。 ・ 出展機器の想定対象者は脊髄損傷者に絞っているが、今回の交流会では脊髄損傷の方はあまり見えられず、他障害の患者様ニーズが来場者や出展者から聞くことができた。他障害への展開も考えていたので、大変参考になった。 ・ 当事者との交流のほか、他社や大学、支援施設との交流ができ、今後の開発にプラスとなった。
C	団体	一般社団法人 日本ALS協会	・ 大変有意義な会だと思う。エリア出展企業だけでなく、その他のエリア出展企業とも機器に関する意見交換を行った。
	企業	オリィ研究所、オフィス結アジア、ウェルパートナーズ、スマイル介護機器販売、テクノツール、パナソニックエイジフリーライフテック、パシフィックサプライ、パムック、ヒューマンテクノシステムズ、日立ケーイーシステムズ、宮内唯	・ 当事者の皆様にプレゼンを行い、認知度を上げることができたと感じる。 ・ 他社の技術と弊社のインターフェースを合わせた製品の開発の可能性が見えた。ユーザのご要望を叶えるために、自社技術だけにこだわらず、アイデアを出し合い、よりよい製品作りを目指したい。 ・ 障害者団体の皆様が、自社ソリューションをご存知でない場合が多かったが、ご説明することで有用性を認めて頂きニーズを感じられた。 ・ 展示品に関して、当事者より詳細かつ具体的な改良要望を頂けたのが、早期に製品にフィードバックできるので有難かった。 ・ 多くの当事者、ご家族や支援者、医療・福祉関係者の方々と交流し、改めて自社製品への需要と期待の高さが伺えた。
D	団体	社会福祉法人 全国盲ろう者協会	・ なかなか知られていない障害であり、専用の機器というものがない。盲人向けの機器で代用している。このような機会では、障害やニーズについて情報発信できるのは素晴らしいと考える。 ・ こういった交流会で企業と交流し、新しい機器の開発につながることを願う。

各エリアの団体、企業			当日の状況インタビュー
	企業	日本精工、画像聴覚化研究所、日本電子出版協会 ビジネス研究委員会	・ 当事者や来場者と出展製品に関して意見交換したところ、当初想定していた場所以外での活用も可能性があると感じた。 ・ 当事者をはじめ、ご来場の方に大変反響を頂いて喜んでいる。製品改良につながる情報交換もできた。
E	団体	社会福祉法人 日本盲人会連合	・ 今回のような試みは、大変素晴らしいと思う。障害当事者やその他の人も、世の中に存在する支援機器を知らない場合がある。広く当事者に来て頂いて、今開発されている機器にどんなものがあるのか、知ってほしい。 ・ また当団体の活動内容を紹介できる場を設けられ、有意義な会だと考える。
	企業	ゴビ、KOSUGE、テイクス、テックアイ オーサービス、西澤電機計器製作所、日本視覚障がい情報普及支援協会、パナソニック、富士電子、レハ・ヴィジョン	・ 当事者の方や障害者支援機器を開発されている他の企業様にご覧いただき、多くのご意見をいただくことができた。 ・ 視覚障害者や、他の障害者にも自社製品を試して頂き、良さを実感して頂いた。 ・ 視覚障がいの関係者からの販路のアドバイスを頂く場や障がい者向けの教育題材としての意見交換の場として交流が深まり有意義だった。 ・ 自社製品に関しては、視覚障害者以外でも需要が存在することが交流会でのやり取りから実感できた。 ・ 当事者以外にも他の開発企業と交流と情報交換ができ有意義な時間となった。
F	団体	ろう・難聴教育研究会 NPO法人 ろう教育を考える全国協議会 国立大学法人 筑波技術大学	・ ろう教育を周知する機会はなかなかなく、このような交流会は大変貴重な機会だ。手話教育に役立つ教材やソフトウェアの開発で革新を図っている。
	企業	アイセック・ジャパン、ユニバーサル・サウンドデザイン、SOBAプロジェクト	・ 今回の交流会でも聞こえに不自由を抱えている当事者の皆様から、自社製品を使ってみたいとの声をたくさん頂戴した。とても良い交流ができた。当事者の皆様に製品説明を行い、要望やご意見をたくさん頂いた。今後の改良に役立てていきたい。
	団体	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	・ 通常の展示会とは異なり、使う側と作る側の人々が交流している状態がうまれ、良い状態であると思う。

各エリアの団体、企業			当日の状況インタビュー
G	企業	アドバンスト・メディア、日本コクレア、シャムロック・レコード、ソナール、プラスヴォイス、メディア・アクセス・サポートセンター、東京信友	・ 具体的にニーズがある方たちが訪れていた。現実には話ができとても有意義な交流会だった。 ・ 当事者の皆様に製品説明を行った。自社製品ではITを活用しているので、まずはITリテラシー教育の必要性を感じた。 ・ 当事者や、自社サービスを導入検討中の事業者と意見交換ができた。有益なコメントを得られたので、開発に活かしていく。
	団体	ポリオの会	・ とても有意義な会だった。同じエリアの出展団体とも2日間の時間を過ごすことにより、団体と企業の間および企業間での交流が深まった。今後も交流は続けていく予定。
H	企業	キザキ、スワニー、タチイス、あい・あーる・けあ	・ 当事者の皆様に、未出展の開発品についてもご意見を頂いた。 ・ 出展エリア内で交流が大変深まり、今後も密に意見交換を行っていきたい。
	団体	NPO法人 自閉症サポートセンター	・ とても楽しく、良い交流会だと思う。出展企業の製品で、ニーズに合致するソリューションを見つけられてよかった。 ・ 来場者で、自閉症のご家族を持つ方がご相談に来てくださった。様々な交流が出来て有意義であった。
I	企業	ソキエ、マイクロブレイン、アイエスゲート、アクセスインターナショナル、ユープラス	・ 今回の交流会を通して、ユーザが困っていることや必要としていることなど、じっくりと情報交換ができた。 ・ 障がい当事者やそのご家族・研究者・障がい団体・出展者の方々と広く意見交換やヒアリングを行ない、交流を図ることができた。中でも、自社製品の対象ユーザとしてある障害をお持ちの方々を想定していたが、当事者の方のご意見により、他分野においても潜在ユーザがいらっしゃる可能性を知ったのはヒントになった。 ・ 隣接する出展企業間での交流から、今後の開発へのアイデアを得られた。
	団体		

◆アイセック・ジャパンと来場者の交流：

聴覚障害をお持ちの来場者が、お話を聞きたいと企業の方にアプローチされていた。質問は同社の情報保障サービスに関してで、難聴者同士のコミュニケーションには使用できるのか、こういった仕組みなのか等詳しくやり取りされていた。企業側も開発中の事業であり、当事者から頂いたご意見をもとにビジネスモデルも検討していくとのことで、前向きな交流が行われた。



アイセック・ジャパン ブースでの交流風景

◆オリィ研究所における来場者との交流：

主にALS患者向けに、操作する人の分身となるコミュニケーションロボットの開発を手掛けるオリィ研究所には、連日多くの来場者が訪れて当事者やそのご家族が熱心に話を聞いていた。オリィ研究所には、その分身ロボットであるOriHimeを活用して、インターンとして勤務しているALS患者もいらっしゃるとのことで、そうした雇用創出を行う姿勢に感銘を受けている方も多い。こうして当事者の方と交流することで、認知度をあげるとともに更なる製品開発を行いたいとの事。



オリィ研究所ブース交流風景

◆企業間の交流：オフィス結アジアとヒューマンテクノシステム

タブレットを使った情報伝達アプリ開発を手掛けるオフィス結アジアと咽頭切開手術や言語障害者への音声発話支援を行うヒューマンテクノシステムは、今回の展示会で日本ALS協会の出展エリアに隣接してブース出展することになった。初対面という状況の両社は、今回の交流会で初めて交流を行い、お互いの開発商品について知ることとなった。

もともと相対的に狭いターゲットの使用者に対しての製品開発を行ってきたヒューマンテクノシステム社は、今回の交流会を通じて、来場者から新たな使い方やニーズに関する意見を頂くことができ、大変有益に感じていた。ただ、今回の交流会の成果のひとつは、会期中に交流を深めたオフィス結アジア社との出会いだったのではと思われる。お互いのインターフェースや技術を組み合わせることにより、ユーザの要望期待に更に応えられると感じ、コラボレーションの気運が高まっているという。使う人の需要を満たす、より良い物づくりに向けての企業連携の動きは加速していくと思われる。



交流会会場の様子



交流の様子



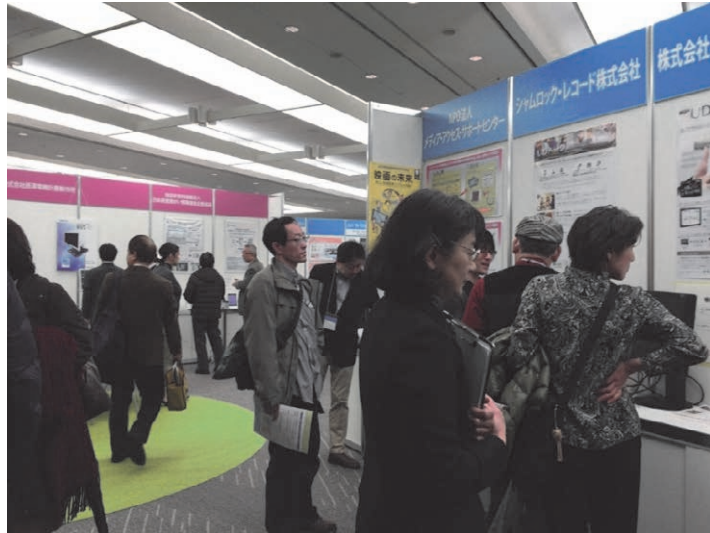
交流の様子（さいとう工房）



交流の様子（オフィス結アジア）



交流の様子（スワニー）



交流会の様子（全日本難聴者・中途失聴者団体連合会エリア）

6. 講演・シンポジウムの概要

(1) 自立支援機器開発に対する期待と役割について

日本作業療法士協会 会長 中村春基 氏

講演の概要：

- ・ 約38年の障害当事者との触れ合いの中で、彼らのニーズを満たし、彼らのやりたい事をサポートするための機器開発に数多く携わってきた
- ・ 障害をお持ちの方が、自分自身でやりたい事をできるという自覚を持つことで、生きることのモチベーションを維持することができる
- ・ 当事者の方のニーズをよく聞いて、より良い機器と一緒に作っていくことが大切

◆障害当事者にとっての支援機器の大切さ

- ・ 32年前、頸椎損傷者Tさんの「自分の好きな時、望む時に好きな本を読みたい」、「自分で食事をしたい」といったニーズに対して、試行錯誤を行った。この結果から、「より良いニーズを実現するには、当事者ができることを積み重ねていくことが重要」であることを学んだ



読書を支援する読書台の工夫

- ・ Tさんはその後、勉学に励み簿記等の資格も取得し、32年後の現在はNPO法人を立ち上げて運営している
- ・ 頸椎を損傷された他の人への大きな励みとなる存在となった



現在のTさん

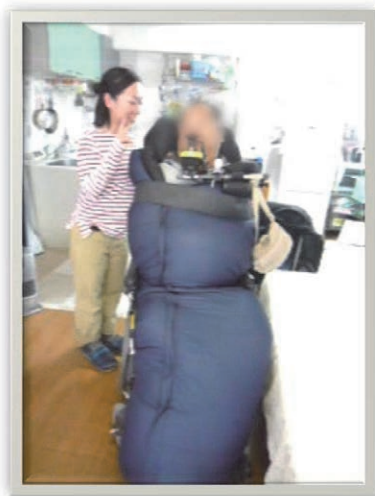
Tさんはリフトとスリングで移乗を行う。このスリングはこの20年間、修理をしながら使用している。排泄は週2回、臥位ではなく座った状態で行っているという。その方が自然な形であると共に、人間にとって上体を立たせることの意味はとても大きい。

車いす、バスタブへの移乗
週2回、排泄はつり上げて実施
臥位よりスムーズ



リフトと共に使用しているスリング

- 「立ちたい」という要望をかなえることは大変重要だと考える。欧州では、立つ姿勢をとれる車椅子は一般的な存在。人間は「立つ」姿勢を長期間とらなくては、骨も弱くなってしまう。1日に1時間だけでも立位をとり負荷をかけられれば、弱体化も防げるはず。実現してあげたいテーマである。
- 「立つ」ということは、「生きる」を支えることと同じ



生きるを支える

住むを支える

生活を支える

らしさを支える

現在のTさん

- 高齢化の問題は大きい。若いころ使用できた自助具が使えなくなるといった事が起きる。健常者の高齢化は大きな問題だが、障害者にとっては更に深刻な問題である。身体の状態の変化に合わせた機器が必要となる。
- 障害当事者との触れ合いから、現状感じているニーズ：
 - － スイッチひとつ、自動で掛けることのできる布団
 - － 海外旅行の際に電動車いすは貨物扱いになり、飛行機の中に入れない。
緩和してほしい
 - － 電動車いすの転倒を防ぎたい。傾いても、座面がいつも平行なものがあれば本当に嬉しいという
 - － 新幹線内で、電動車いすを充電できれば大変助かる
 - － 災害時に電気が断たれた場合の対策

(2) 3Dプリンタが拓く新たな支援機器デザインの可能性

① 3Dプリンタと支援機器 –個人利用から生産技術まで

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発室長 硯川 潤氏

概要

- ・ 3Dプリンタの普及によって、物づくりのハードルが一気に下がっている
 - ・ 複雑なプロセスが不要になるため、使う人が自分専用の機器を自分で作成する未来も近い
 - ・ 3次元で設計されたデータを効率的に再利用することが可能
 - ・ 支援機器関連品の製作を行ってくれる、新規参入者の流入を誘いたい
 - ・ 世界中で作られた設計データがインターネット上で入手可能
- 障害当事者や、その他専門職による3Dプリンタ活用の可能性
 - 3Dプリンタの概要、利点とは何か
 - ・ ひとつの工法で、様々な形状のものを作ることが可能

本日の構成とトピック

■ オープン化の恩恵

一般化してきた3Dプリンタとその周辺技術が、障害者が用いる自助具・補装具などの支援機器のデザイン・製作・適合にどのような恩恵を与えるか？

> 障害当事者による活用：硯川

> 専門職による活用：中村隆 主任義肢装具士@国リハ研

「3Dプリンタの義肢装具への応用可能性」

■ Direct Digital Manufacturing (DDM) の恩恵

デジタルデータから実際の製造物までの距離が飛躍的に縮まり、これまでにない開発・製造・流通プロセスが生まれる

> 高嶋淳 研究員@国リハ研

「デジタル生産技術：DDMで広がる超ユニバーサルデザイン」



<http://www.ge.com/>



<http://www.boeing.com/>

本日の基調報告レジュメ

- デザインプロセスの中に思いを言葉に、言葉を形にという考え方があるが、その理由は、使う人と作る人が異なるからである。これから、使う人と作る人が同一、すなわち自分のほしいものを自分で作って手に入れることができるという事が可能になる。ハンディキャップのある人でも簡単に自分専用の物を作ることができる。

思いを形に！

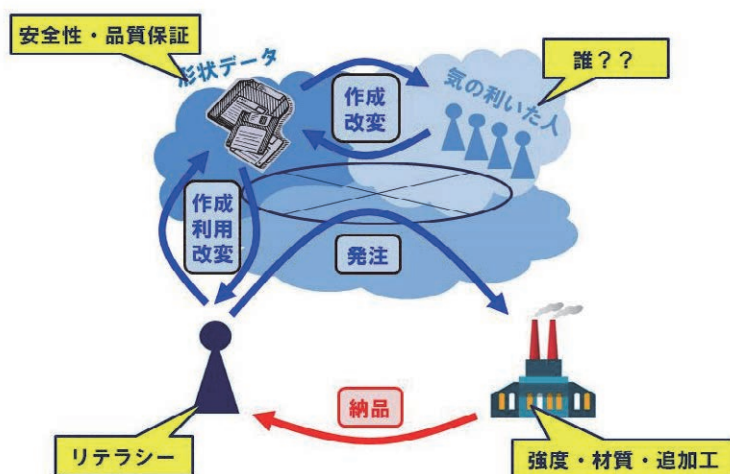


- > 「思いを言葉に、言葉を形に」が通常のデザインプロセス
- > 作り手と使い手が異なるから「言葉」が必要
- > もし、自分の「思い」を直接形にできたら？

エアコン調節用に3Dプリンタで作られたアタッチメント

- 研究室でインターンに作ってもらったエアコン調節用アタッチメントが、その例のひとつだ。3Dプリンタで簡単に出力した。個別性に対応したモノが自由に作れる。オンライン上でも、設計データが豊富にアップロードされており、CAD図面を調整すれば簡単に必要な物を出力できる
- ただし、支援機器の製作に3Dプリンタを使用する場合には安全性や強度など、当然ながら気を付けなくてはならない。

今後の課題



② 3Dプリンタの義肢装具への応用可能性

同 主任義肢装具士 中村 隆氏

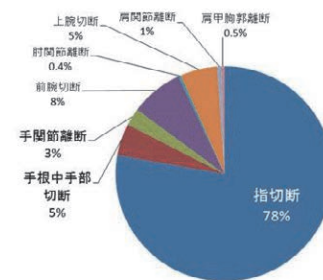
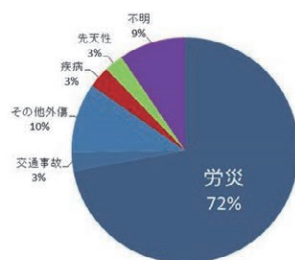
概要

- 義手は製作工程が複雑であり、高価なアイテムであった
 - 3Dプリンタでの義手製作は既に行われており、実用化に向けて開発中である。
 - 製作の際はリスク、研究コストも加味して行うべきである
- 義手は製作対象としてちょうど良いアイテム
 - － 義足ほどの強度は求められない
 - － サイズ的に適している
 - － 切断の象徴的な意味(上肢切断からの復帰は大きなインパクトがある)
 - 実際に3Dプリンタで作られている義手
 - － Finch(奈良先端科学技術大学)
3本指のロボットだが、光センサで動く。
 - － Handii(Exii)
5本指の電動ハンド。
これまでの義手は150万円以上かかるが、このモデルは手軽な価格に設定
 - 3Dプリンタを使用することで、義手の価格は安くなる。制度に組み入れられるかという議論になる。制度にとらわれず自由市場で販売となると、どうしても市場規模を見なくてはならない。日本の場合、上肢切断者は8万人。その理由は外傷(労災)切断箇所は、指先が圧倒的に多い。手首から肘の間の切断は、全体の2割程度のボリューム。もともと少ないマーケットが更に絞られる
 - 義手購入のタイミングは、大体0歳、20歳、40歳代。3者3様のニーズがある

市場としての義肢装具分野

日本の義手対象者(上肢切断者)の場合

- 上肢切断者の数は全国で約8万人(平成18年度統計調査)
- 主な原因は外傷(労災)
- 手関節以遠の切断が多い



1968～1997年、約3500名の調査 澤村誠志「切断と義肢」より

③デジタル生産技術：DDMで広がる超ユニバーサルデザイン

同 福祉機器開発研究員 高嶋 淳氏

概要

- DDMにより、専門知識や技術がなくても均一な品質のモノを製作可能
- 個別性の高いものも自由に作れる。超ユニバーサルの時代も近い

- デジタルデータから最終製品を直接製作するのがDDM。大量でも少量生産でもコストは一定。誰も好きなものを簡単に作れる超ユニバーサル時代といえる

DDM (Direct Digital Manufacturing) とは

デジタルデータから直接最終製品を出力する製造法

- オンデマンド生産
- 迅速な加工
- 全自動

まとめ

DDM技術により、

- 設計の自由度が格段に増えた
- 作業工数も大幅に減らせる
- 治具や在庫などが不要に
- 試作も量産も同じ時間と手間

オーダーメイドを超える

超ユニバーサルデザインへの道が拓けた

(3) 自立支援機器を活用した活動と参加

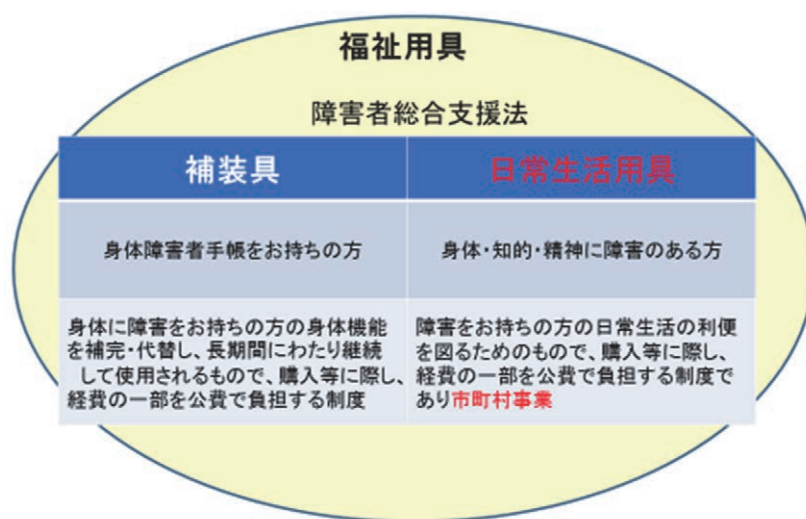
① 自立支援機器を活用した自閉症のある方の活動と参加

NPO法人自閉症サポートセンター 松井 宏昭氏

概要

- ・ 自閉症、知的障害をお持ちの方にとっての福祉用具とは
- ・ 日常生活用具は市町村の事業として全ての人が対象だが、給付は進まない
- ・ 今後、行政も主体的にニーズの精査をしていくべき

補装具と日常生活用具とは



- ・ 法律改正により、行政の福祉用具給付体制は整ったが、給付は進まない
- ・ 利用者を支援する窓口を担う行政担当者や、学校の教員などが、もっと認識を新たにして福祉用具のファシリテーターとして機能するべきである
- ・ 「手作り」ができ、「かっこいい」製品が望まれる
- ・ 当事者が望む製品を活用することで、コミュニケーションツールとしても有効
- ・ 「タイマー」「イヤーマット」「パーティション」などは有効なツール

あのね♪DSを学校から家庭へ

1. 学校の着替える場面で活用していたところ、非常に効果的であったため、「家では着替えるのに時間がかかって次の行動に移るのが大変。」という相談を受けた際に、自宅でも使用できるように保護者に説明をした。
2. 「使い方は本人がわかっている。このDSではゲームはさせないでください。」と伝える。
3. 冬休み中も、着替える際に自分で時間を設定して、着替える。保護者からは「とても効果的だった。」と報告。
4. その他にタイムタイマー機能にも興味をもっており、「自分の目で見て判断できる方が分かりやすい。」という視点から、今後もタイムタイマーを学校で使用した後は、自宅での使用に移行していく予定である。



写真 自分で着替えに必要な時間を設定している場面

専用機でなくても、汎用機器を便利に使うことも可能

②チャレンジド（障害者及び難病の方）に対する就労支援事業の紹介と 自立支援機器活用による就職事例の紹介

NPO法人チャレンジド・コミュニティ 理事長 金井 光一氏

概要

- ・ 障害者の一般事業会社への就労支援活動について
- ・ 就労の際、企業から課題として掲げられた項目をひとつひとつ解決し、就職を成功させている

● 障害者の就労支援事例

- 1) リウマチを症状に持つ車いす生活の方への就職支援事例
 - － 就職する際の課題として、「各室のバリアフリー化」と「作業机の高さ」の2点が挙げられた
 - － 「各室のバリアフリー化」は、行政からの支援金にて解決
 - － 作業机の高さについては、車いすの座面を電動にすることを2年かけて検討し、就職に成功
- 2) 精密機械の企業へ就職した車いす生活の方への就職支援事例
 - － クリーン対応のため「土足厳禁」の社則が課題として挙げられた
 - － 家庭用の車いすスタンドを利用し、就職に成功
- 3) 在宅就労の就職支援事例
 - － 在宅就労では、「対面での会話」「労務・出勤時間」の管理方法が課題として挙げられた
 - － 2つの課題に対して、テレビ会議システムを導入することで課題を解決

就職に向けての自立支援機器の活用紹介

事例1: 座面が上下する車いす

障害者の希望 → 事務職で就職したい

企業側の希望 → 机、会議室用テーブルは
そのまま使いたい



車椅子の変更によって対応した

就職に向けての自立支援機器の活用紹介

事例2: 車いすタイヤのスタンド

障害者の希望 → 事務職で就職したい

企業側の希望 → 室内は土足厳禁

財団法人テクノエイド協会
祉用具研究開発助成事業による研究開発商品
(NPO法人とちぎノーマライゼーション研究会)



車いすスタンドの利用

③障害者自立支援機器 「シーズ・ニーズマッチング交流会」

～作る人と使う人の交流会～

NPO法人あいちサポートセンター未来 石崎 洋子氏

概要

- ・ ヘルパー、相談支援専門員の立場で医療機関やメーカーと折衝してきた
- ・ ボランティアへの支援や、支援機器の更なる開発が必要

障害者支援に関する疑問

- ・ 最新の支援機器、日常生活用具を医者は把握できているのか
 - ・ 退院時の相談所への紹介システムが無い
 - ・ 支援機器のデータを動画として閲覧できる環境が少ない
 - ・ 個人が安く支援機器を購入できる仕組みが無い
(NPO法人では支援機器が安く購入可能)
 - ・ 介護保険と異なり、相談支援のモニタリングは半年に1回のため、資金の確保が難しい
 - ・ 専門員が補装具のコーディネートができる能力の必要性
 - ・ 石崎氏が考える障害者支援への各種要望について説明し、報告を終了
 - ・ ボランティアへの支援
 - ・ 支援機器の開発依頼
- (「視覚障害者向けの音声カレンダー」「遠隔操作型のテレビ電話」「ICタグによる識別管理装置」など)

NPO法人あいちサポートセンター未来

・ 障害者相談支援事業所 「生活サポートみらい」

～現場報告～ 障害者相談支援専門員石崎洋子より

1. 家族が突然障害を負ってしまった立場から
2. 相談支援専門員としての立場から
3. ロボット介護推進プログラムの仲介者の立場から
4. ボランティアセンター勤務経験やボランティアの立場から



4-3 ボランティアセンター勤務経験やボランティアの立場から 開発者に機器の開発を要望

1. 障害のある方に接していると、障害のある方から要望を聞く機会が多々あります。そんなご要望で、以下の機器を開発して頂いたり、また ボランティア活動をするうえで、そんな機器を利用させて頂きたいと、モニターをお願いしたり、こんな機器を開発者の方と一緒に広めたいと思ったりします。

今日もコーディネーターの立場から・・・

開発依頼案の例)

①視覚障害者の音声カレンダー

カレンダーの登録、予定を教えてくれる。知能カレンダーH27年3月試作品が出来ます。

利用・活用してみたい機器の例)

①ハイブリッドシステムさんのSmyline

離れて暮らすご家族とお部屋の様子を確認できる見守り機器

②株式会社親和製作所さんの工場の倉庫での部品の在庫管理や履歴管理などに使われているRFIDと言われる技術を応用し、身体障害者の雇用促進と介護現場職員の負担軽減の両立を目指すシステムプランを考えました。RFIDとは、ICタグ等により物の識別・管理する仕組みを言います。

④天使のみらい障がい者就労育成活動と参加による臨床教育

メッセージ花くじら 理事長 石田 眞氏

概要

- ・ 自立支援に関する活動を報告
ー教育訓練の例

障害者自立支援訓練のトピック

- ・ 親への対応が難しい時がある本人はチャレンジしてみたいと思っているのだが、親が制止してしまう実情がある
- ・ 各種臨床教育事例
 - ー社会福祉用具の回収・再利用製品のクリーニング
 - ー社会参加自立訓練
 - ーマンション・オフィスなどの清掃
 - ー駐車場・空地の草刈り

車いすのクリーニング実習



訓練の例（車いすのクリーニング）

マンション清掃



訓練の例（マンション清掃）

(4) シンポジウム「開発・市販化に向けての苦労話と参加」

【座長】	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問 諏訪 基 氏
	(厚労省採択企業) 株式会社アドバンス・メディア 中村 雅巳 氏
	(NEDO採択企業) 株式会社スマートサポート 鈴木 善人 氏
	(NICT採択企業) 株式会社SOBAプロジェクト 乾 和志 氏
	(前テクノ採択企業) セコム株式会社 石井 純夫 氏
	パナソニックエイジフリーライフテック株式会社 松尾 光晴 氏
	日本電気株式会社 北風 晴司 氏

①シンポジウムのねらい

障害者の自立を支援する機器については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の参加や活動を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものである。

一方、障害者のニーズは多様化・複雑化する中であって、現に開発された機器の中には、実用性の低い機器も散見される。

シンポジウムでは、当事者のニーズを的確に踏まえた製品開発を推進する観点から、開発に当たっての苦労話や成功に向けてキーとなる事柄を共有しながら、支援機器の開発から利活用に向けたあるべき姿について議論することとした。

②シンポジウムの進行

平成26年度 障害者自立支援機器シーズ・ニーズマッチング交流会			
シンポジウム 開発・市販化に向けての苦労話と成功事例			
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 諏訪 基(座長)			
所 属	氏 名		開発事例
(株) アドバンス・メディア	中村雅巳さん	個別開発事例	「UD手書き」:聴覚障害者のための日常会話支援機器
(株) スマートサポート	鈴木善人さん		「スマートスーツ」:介護従事者の介護労働を「軽労化」するスーツ
(株) SOBAプロジェクト	乾 和志さん		「電話リレーサービス」:遠隔地にいるろう者・手話通訳者・聴者の対話支援
セコム(株)	石井純夫さん		「マイスプーン」:手の不自由な方の食事支援ロボット
パナソニックエイジフリーライフテック(株)	松尾光晴さん	市販	社内ベンチャーによる福祉機器開発とビジネス化
日本電気(株)	北風晴司さん	施策	開発にあたっての必要な施策

③各発表者の資料

Ⅱ. 資料編を参照のこと。

④フロアの意見、質疑

質問者 1（男性の方）

世の中には、当事者のニーズや意見も聞かずに福祉機器を製作している企業も存在する。そういう意味では、こういうシーズ・ニーズマッチング交流会というものは大変重要だと思う。製造企業の中にも、利用者の声を聴くような窓口を常設するようなことも必要ではないかと考える。また、パラリンピックがキーワードになっているが、開催時に海外から来たパラリンピックの先取や家族が、その場で買って帰りたくなるような福祉機器開発を行っていくべきだと思う。

質問者 2（女性の方）

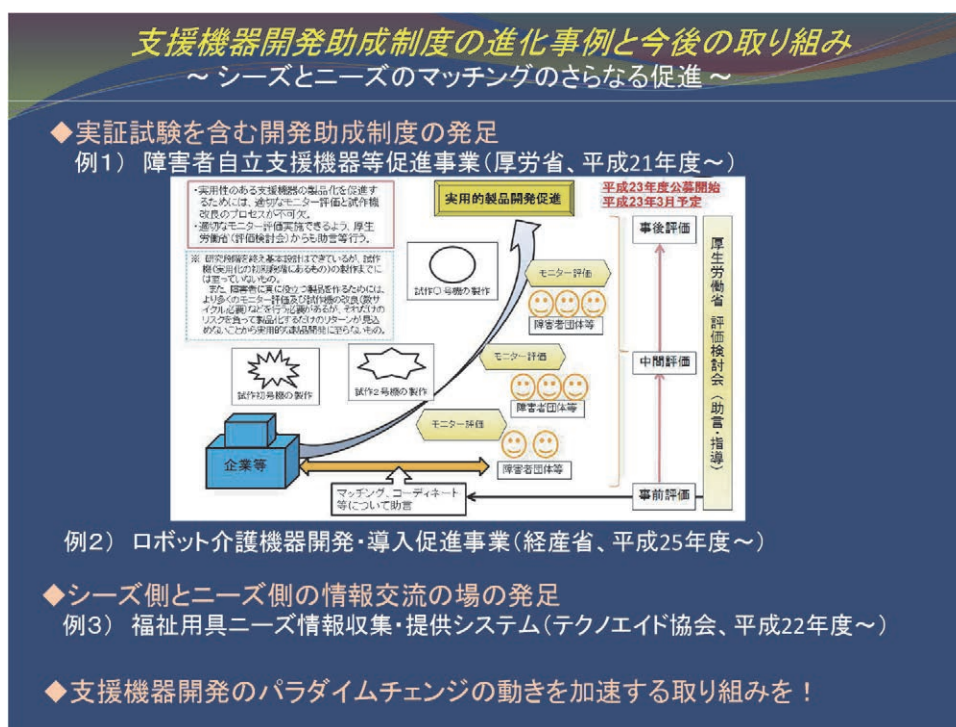
福祉機器を20年間作っているが、死の谷をさまよっているような状況にある。その理由は、医学はどんどん高度になるが、在宅の医療は貧しい状態にあるからだと思える。医学や看護教育の中に、福祉用具をきちんと入れるべき。そうすれば、患者さんも福祉用具をもっと使うようになる。障害を持った者を治すには工学的な見地が必ず必要である。福祉用具のレベルをもっと上げていかなくてはならない。患者さん達は、どんな福祉用具が存在するのか知識がない状態。きちんと説明していくような体制を皆で進めていくべきではないか。

⑤講演会のまとめ（諏訪座長）

課題解決のためには、ステークホルダーの方向性一つに纏めていくことが必要。

真に使われる価値ある支援機器を皆で考える時代を迎えている。

モノづくりだけで終わらず、実証試験を行う仕組みも整備されつつある。

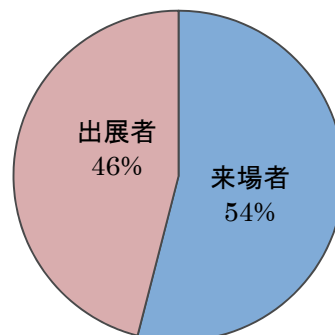


7. シーズ・ニーズアンケート調査の実施について

(1) アンケート概要

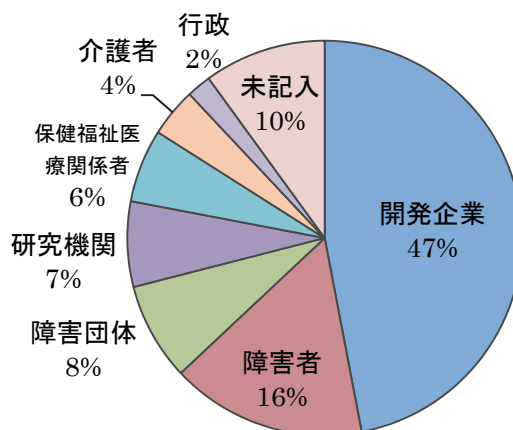
442名の来場者のうち99名がアンケート調査にご協力頂いた。また、85名の出展者全員にもご協力頂き、合計184名からアンケートを回収した。

回答者	人数	割合
来場者	99名	54%
出展者	85名	46%
合計	184名	100%



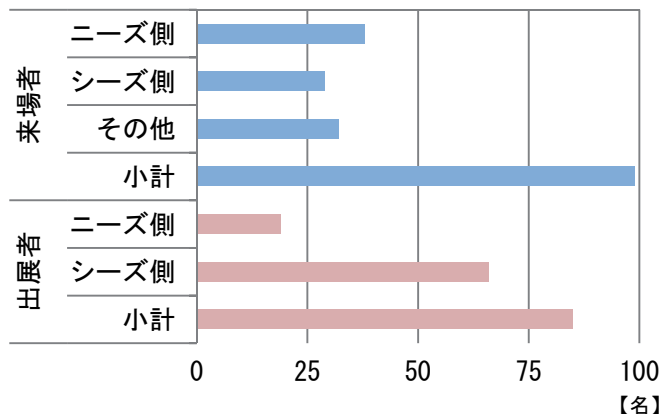
- ① 回答者総数184名の47%がシーズ側の開発企業となる一方、障害者、障害団体、保健福祉医療関係者、介護者等ニーズ側の回答者は34%、その他の方は19%となった。

回答者種別	人数	割合
開発企業	87名	47%
障害者	29名	16%
障害団体	15名	8%
研究機関	13名	7%
保健福祉医療関係者	11名	6%
介護者	7名	4%
行政	3名	2%
未記入	19名	10%
合計	184名	100%



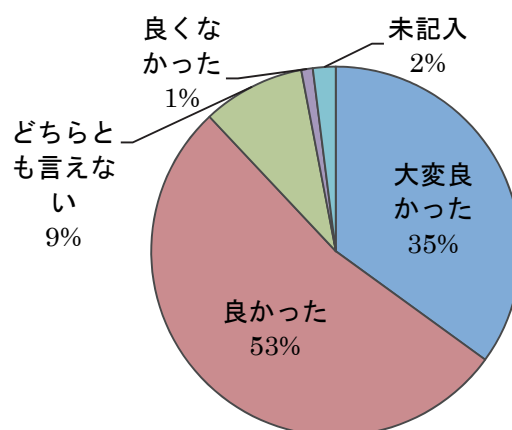
- ② 回答頂いた来場者の内訳は、38%の38名がニーズ側、29%の29名がシーズ側、その他が32%の32名となった。出展者は22%の19名がニーズ側、78%の66名がシーズ側となった。

回答者の属性		人数	割合
来場者	ニーズ側	38名	38%
	シーズ側	29名	29%
	その他	32名	32%
	小計	99名	100%
出展者	ニーズ側	19名	22%
	シーズ側	66名	78%
	小計	85名	100%
合計		184名	-



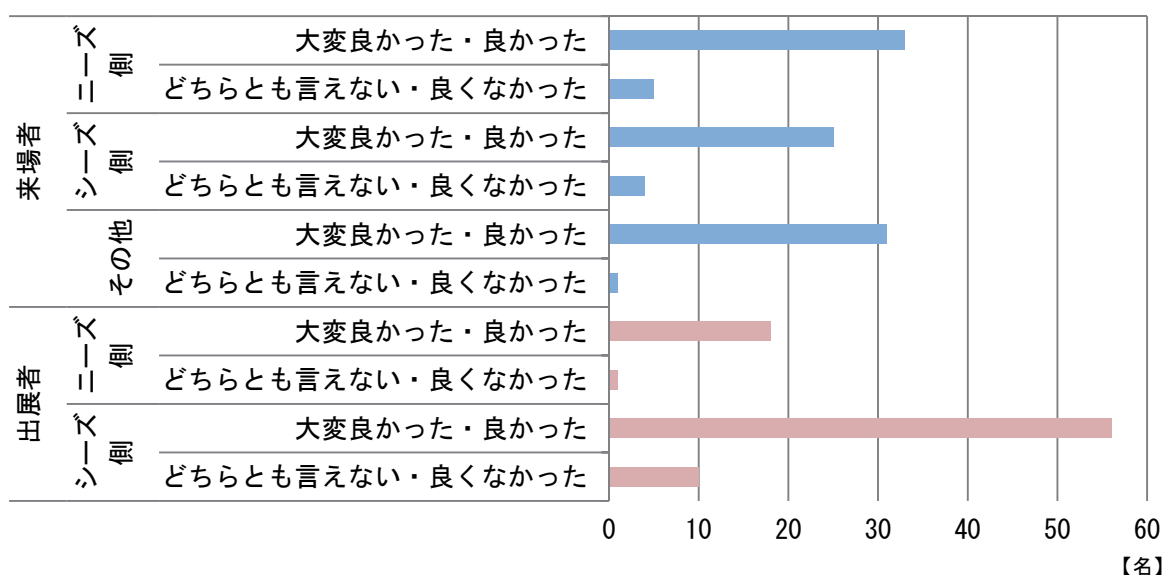
- ③ 交流会への満足度に関しては、来場者・出展者合わせて回答者総数の５３％が「良かった」、３５％が「大変良かった」と回答した。

交流会の満足度	回答数	割合
大変良かった	65 名	35%
良かった	98 名	53%
どちらとも言えない	16 名	9%
良くなかった	1 名	1%
未記入	4 名	2%
合計	184 名	100%



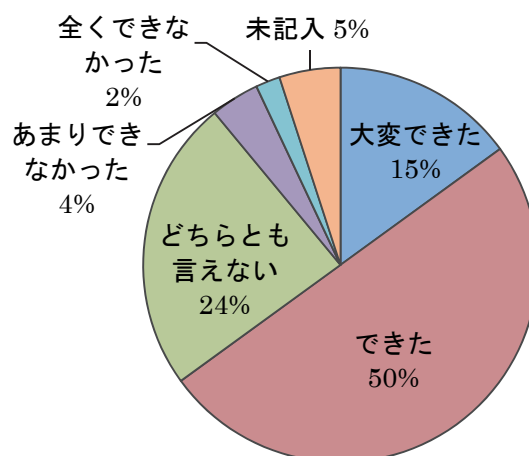
- ④ また、来場者・出展者別の満足度に関する回答は下記の通りである。出展者、来場者ともに高い満足度を示したが、出展者に関してはシーズ側である企業側の１５％の回答者が「どちらとも言えない・良くなかった」選んでおり、要因を探る必要がある。

属性		交流会の満足度	回答数
来場者	ニーズ側	大変良かった・良かった	33 名
		どちらとも言えない・良くなかった	5 名
	シーズ側	大変良かった・良かった	25 名
		どちらとも言えない・良くなかった	4 名
	その他	大変良かった・良かった	31 名
		どちらとも言えない・良くなかった	1 名
出展者	ニーズ側	大変良かった・良かった	18 名
		どちらとも言えない・良くなかった	1 名
	シーズ側	大変良かった・良かった	56 名
		どちらとも言えない・良くなかった	10 名



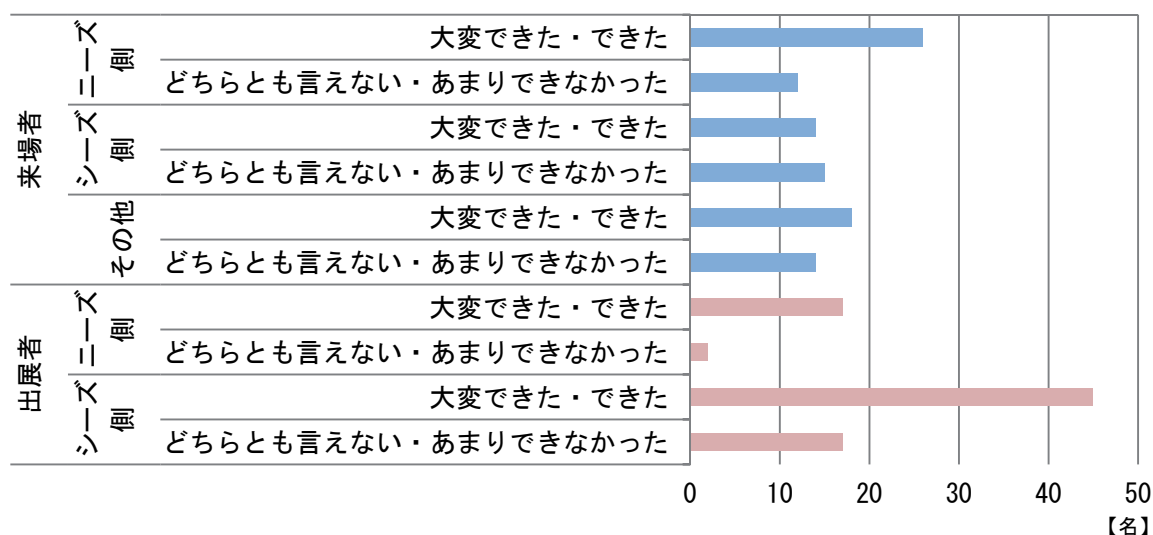
- ⑤ 今回の交流会が、今後の交流のきっかけにつながったかどうかは、以下回答を得た。全体では65%の方が交流できた、大変できたと回答された。

交流のきっかけ	回答数	割合
大変できた	28 名	15%
できた	92 名	50%
どちらとも言えない	44 名	24%
あまりできなかった	8 名	4%
全くできなかった	3 名	2%
未記入	9 名	5%
合計	184 名	100%



- ⑥ また、出展者・来場者別の回答は以下の通りニーズ側の出展者以外は、交流の度合いが相対的に低く、こちらも要因の深堀が必要である。

属性		交流のきっかけ	回答数
来場者	ニーズ側	大変できた・できた	26 名
		どちらとも言えない・あまりできなかった	12 名
	シーズ側	大変できた・できた	14 名
		どちらとも言えない・あまりできなかった	15 名
	その他	大変できた・できた	18 名
		どちらとも言えない・あまりできなかった	14 名
出展者	ニーズ側	大変できた・できた	17 名
		どちらとも言えない・あまりできなかった	2 名
	シーズ側	大変できた・できた	45 名
		どちらとも言えない・あまりできなかった	17 名



⑦ 交流会への期待（全てのご意見）

来場者

（障害当事者・障害団体）

- ・ 意義のある会合であり、2回3回と設けてほしい。
- ・ 機器の性能が向上しているので今後が楽しみ。
- ・ 次回をご案内下さるようお願いする。
- ・ もっと宣伝して頂きたい。
- ・ 色々な分野の人に出会えて、自分のライフスタイルのヒントになった。
- ・ 大規模でなく、交流がし易かった。

（保健福祉医療関係者）

- ・ 定期的に開催して欲しい。
- ・ 継続して欲しい。

（研究機関）

- ・ 障害者支援の様々なボランティア団体が活動しているが、資金がない事からなかなか広まらない現状があるので、こういったイベントを行うことによって様々な人に知ってもらい、スポンサーを募ることが出来たらと思う。

（開発企業）

- ・ 良かった。継続して毎年開催して下さい。
- ・ 次回も開催をお願いする。
- ・ 継続的な開催（隔年でも良いが）。
- ・ 生の声が聴ける。
- ・ もっと健康を中心とした交流を。障害を意識しているのはわかるが、社会への参加は心も身体も健康でなければ出来ない。
- ・ 展示会の大規模化・大スペース化。

（その他）

- ・ 普及・販売については、国は自治体（又はその出先）の有効的支援が必要。売れることで改良のプロセスが進む。
- ・ もっと実演を多く面白く。

出展者

（障害当事者）

- ・ 交流が大変良かった。
- ・ 企業同士の交流・来訪者との交流がとても弾んで、ゆっくりと話が出来た。今後もし是非続けてほしい。これだけ和やかに話が弾んだのも珍しいと思う。
- ・ 有意義な会になったと思う。
- ・ 利用者がもっと集まるよう工夫。
- ・ これだけのチャンスをマスコミで報道して頂ければありがたい。

（障害団体）

- ・ 毎年やって欲しい。
- ・ このまま続けて欲しい。
- ・ 次回も交流会があれば宜しくをお願いする。
- ・ 関西でもやって欲しい。

(研究機関)

- ・ 当事者の方の参加がもう少し欲しかった。

(開発企業)

- ・ 次回の開催を期待している。
- ・ 今後も続けて毎年開催される事を望む。
- ・ 今後も続けて頂きたいと思う。
- ・ 今後も同様な出展、交流会を期待している。
- ・ 長い期間「継続」して頂き、出展者、来訪者等関係する方々を増やして頂きたい。
- ・ 実際に機械や物を使われる方の意見を聞ける場として続けてほしい開発する側だけではなく、ご本人の意見を聞きたい。
- ・ 第2回、3回と続いて欲しい。
- ・ ニーズとシーズの交流を行える場として、継続できるように期待。
- ・ 一層の交流が深まって機器開発につなげて行きたい。
- ・ 第1回を機会に全国に開発する企業と障害をお持ちの方とのシーズ・ニーズがマッチングして、よりよい製品がもっと増えてくると嬉しい。
- ・ 出展企業間の交流の場時間があればより良くなると思う。
- ・ 技術者との交流。
- ・ IT技術の小回りの利く中小企業との連携に期待したい。
- ・ 異業種のコラボマッチング。
- ・ 開発企業としては、直接色々な意見を聞かせて頂く事。他の企業様とのビジネスマッチングに対しても今後更に期待したい。
- ・ 出展開発会社との情報交換が出来た。
- ・ 新規のアイデアを発掘できる。
- ・ 病院等の施設に導入して頂きたいと考えているそれらの施設の方にも情報が届くことを期待する。
- ・ 交流会が話題になって、当日参加出来なかった方からの問い合わせが来るきっかけになって欲しい。
- ・ 事前に出展者の詳細・要望等が、より詳しく分かると良かった。
- ・ 障害者・介護者の来客数が増えると、より多様な意見を集められるので、告知方法に工夫があると良いかと思う。
- ・ もう少し一般の方（特に医療関係者）にアピールしてほしい。
- ・ 1回目としては来場者も多く、次に繋がる会であったと思う。自社製品を知ってもらうことが出来た。
- ・ 思った以上に来場者が多く、良かった。さらに一般の来場者が増えることを期待する。
- ・ シンポジウムも聞きたかったが、展示に忙しくて行けなかった。後でネットで見れると嬉しい。

その他

- ・ もう少し、色々なメディアを通じて宣伝してほしい。（もっと多くの多様な人々に来て頂きたい）

⑧ 改善点（代表的意見）

来場者（当事者）

- ・ 会場自体が障害当事者にとっては不親切なつくり。次回は考えてもらいたい。
- ・ 受付で要筆者が傍にいと良い。
- ・ 広報がそれほど行き届いていないのか、当事者の参加が少ない。

来場者（開発企業）

- ・ どなたが団体の方か、分かるようにしてほしい。
- ・ 日程に余裕がほしい。

出展者（当事者）

- ・ 出展者用の通訳・来場者用の通訳を別々に手配する必要がある。（４～６人は必要）

出展者（開発企業）

- ・ 事前に出展者側のシーズ・ご利用者側のニーズを集めておくなど工夫が必要。
- ・ １社のノウハウだけでは出来ない機器でも、数社が集まる事により実現できるような企業間のマッチングの企画を行ってほしい。

8. 交流会後のマッチングコーディネートの進捗例

療育・自立支援用スモック「heart bridge smock／株式会社スタンダード

株式会社スタンダードは保育園・幼稚園・特別支援学校等で衣服の汚れを防ぐ為に着用する「スモック」の開発を進めている。留め具（マジックテープ、スナップボタン、ループ、ボタン、ファスナー、ユニバーサルボタン）の構造や形状・色を工夫することで、知的障害児（者）の自立・発達の支援や肢体不自由児（者）の生活利便性の向上を図り、一人でも正しく着用できることを目指している。

現在は、一般的に流通している留め具を使用しているが、より効果を高めるには、流通品にはない様々なサイズや形状を数個単位で試作し、強度・安全性・有効性などの検証を繰り返さなければならない。

数多くの試作品製作は時間もコストも掛かるため開発上の課題となっていた。交流会後、数個単位の様々な試作品を３Ｄプリンタで製作できる香川県の団体の紹介を受けることとなり、製品化に向けた課題がひとつ解決できそうである。



9. 交流会後に頂いた当事者団体からのメッセージ

吊具によるリフトの普及策と改善について

重度の障害のある人や高齢者がいつまでも在宅のまま生活し続けることは至難の業である。ベッドから車いす、車いすからトイレへの移乗、車いすから風呂場への移動などの日常生活動作ができなくなると、家族は勿論のことヘルパーの介助も難しくなり、やがては施設入所しか選択肢はなくなる。

障害者総合支援法や介護保険制度を利用してもなお人的介護には限界があるため、移乗や移動にはどうしても福祉機器である吊り具や天井走行リフトに頼らざるを得なくなるのが利用者側の言い分である。

吊り具やリフトの改善が更に本格的に進めば、一人で装着し、一人で操作できる文字通りの介助なしの自立支援機器になる可能性が出てくる。

人は、障害のあるなしに拘わらず誰でも等しく生涯に亘って住み慣れたところで生活することを望んでいる。

(公財)テクノエイド協会や日本福祉用具協会もリフトの普及に取り組んでいるが、リフトは高額でなかなか普及しないという話がある。しかし、福祉用具や介護用ロボットの開発が主流になっている今だからこそ、もう一度、吊り具の改善とリフトの普及を考え直す必要があるのではないか。

吊り具の良い点

介助者も利用者も車いすからトイレ、ベッド、風呂場への移乗、移動が楽にできるようになるので、波及効果として、

- 1、寝たきりになる必要がない。
- 2、基本的に排泄はトイレでできるようになる。
- 3、介助者の腰痛が無くなる。
- 4、吊り具の改善を行うとより一層扱いやすくなる。
- 5、リフトの操作スイッチを改善すると、場合に寄っては利用者が単独で操作できるようになり、その間ヘルパーが必要なくなる。

リスク

- 1、吊り具の取り付けや操作を間違えると危険である。
- 2、吊り具とり付けがややこしい、時間がかかる。
- 3、高価である。
- 4、通常のリモコンは使えない人がいる。

ご意見提出：公益社団法人全国脊髄損傷者連合会
代表理事 妻屋 明

10. 検討委員会における主な意見

(1) 交流会を通じて

- ・ 当事者団体へ準備段階から趣旨を伝えることは、事業の意味を深く理解いただける。今回は素晴らしい取り組みであった。
- ・ 来場者も、交流会の質も、思っている以上の成果があった。
- ・ 使う側だけでなく、企業同士の情報交換の場としても有効であった。
- ・ 発達障害の機器について、栃木県内で働いている発達障害の方をサポートする機器も多くあり、地域での開催することも重要と感じた。
- ・ 交流会では助成金の相談窓口を実施したが、市や県などからニーズの問い合わせが多くあった。
- ・ 目標来場数を3000～4000人と聞いていたので、442人と聞いて驚いた。会場は閑散としていなかったのも、目標達成の場合には収容しきれなかっただろうと思う。
- ・ 助成事業説明会を2日間で計4回開催した。新規で4社ほど次年度応募いただける意向があった。
- ・ 企業同士で話ができ、1社では不可能であったことが、2社なら実現できる可能性があると思った。また、より真剣に取り組むこと。やる気が湧いた。
- ・ スタートが遅れた為、来年度は早い段階で対応できるようにしてほしい。
- ・ 書き手の意図が当事者の方には伝わりづらい。障害者の方にわかりやすい情報提供を行ってほしい。
- ・ HP掲載だけでなく、TVなどのメディアを活用し、もっとPRに力を入れるべき。
- ・ 会場が狭く、どこに何があるか分かりにくい。
- ・ ニーズという言葉を使っているが、もう少し具体的な内容に掘り下げなければならない。
- ・ コーディネーターを置いた効果が具体的に得られているか？来年も継続するのであれば、コーディネーターを育てなければならない。
- ・ 今回のイベントはとても良かったが、期間が短かったうえ、盲人の方にとっては、誘導ブロックが途切れてしていて、駅から会場まで一人では困難であった。
- ・ 一定の間隔で案内の人を配置するべきであった。
- ・ ずっと立ちっぱなしで疲れてしまうので、出展者用の椅子がほしかった。
- ・ 出展者の休憩スペースをより広くしていただけると、くつろげる。
- ・ 来場者の名簿を見ると山口県が一人もいないことが残念であった。東日本の方は多く来場されているので、西日本の方に来ていただけるよう、もっとPRするなどの工夫が必要。
- ・ 交流会の周知の依頼が遅すぎて、カタログの配布やメール配信が不十分であった。

(2) 来年度の方策について

- ・ 自立支援機器という言葉の意味を考えてもらいたい。現在ある不便さを解消した先の仕事や旅行などに行くことが最終目的である。
- ・ 高額だから使用しないと言われるが、社会参加するための活動の価値はお金では換算

できない。

- ・ マッチング後どうやって開発を支援していくかが今後の課題。
- ・ ICTコミュニケーション技術によりナビゲーションシステムが今後必要になってくる。
- ・ 展示だけでなく、簡単に体験できるシミュレーションの場を提供すべき。
- ・ 大学や看護学校、セラピスト等の学生に周知し、学習の場として提供することも必要と思った。
- ・ 今後は地域と都市を結んで、最新の情報や技術を地域ごとに独自性を持って生かすことが大切であると感じた。
- ・ 出展していた商品に関して、価格や機能など何か一つ良いものがないとなかなか普及しないのではないかな。
- ・ 宇都宮でもミニ展示会のようなイベントを実施したい。地域の障害者団体も協力してくれると思う。
- ・ 「何をつくればいいのか」という視点に立って意見交換を行うべき。
- ・ 全国各地においてミニ展示会みたいな形で実施すべき。
- ・ 障害当事者団体は全国各地で生活上の問題をテーマとして分科会を実施している。そのような会とうまく連携して、障害分野ごとに実施できれば非常に濃い議論ができると思う。
- ・ 以前、HCRやバリアフリー展では、自立支援機器の展示が多かった。しかし最近は商品の売り込み・ビジネスベースになっている。利用する側と作成する側の双方にとって良い会となることを願う。
- ・ 今回のような交流会をもっと頻繁に開催して欲しい。
- ・ 開発中の製品だけでなく、既存の機器を含めてどういうものがあるのか展示し、足りないものを検討する交流をしたい。
- ・ 出展社は人件費や旅費だけでも負担が大きい、ブース代は無料にすることが望ましい。
- ・ 会場までの旅費の捻出に負担がかかる。地方での開催を希望する。
- ・ 様々な企業の声を聞く事業が今年度スタートするので、企業からの要望があれば、出口戦略の一つとして本事業を紹介し貢献したい。
- ・ 我々が行っている福祉機器の助成事業について、周知が足りておらず、色々な場に出向いて意見を聞きながら、今後改善を図りたい。
- ・ 国が政策を実施するにあたり、新しい取り組みを検討するが、今回の課題をきちんと報告書に記載し、今後継続して開催することを望む。

(3) 全体的な視点からの意見

- ・ 食事でも旅行でもいいので、障害者の方の日常生活を理解するための企業向けの研修会コースを作って欲しい。
- ・ ニーズとは日常生活の中で湧いてくるもの、挙げられた意見を団体としてまとめ、ニーズを提示することが重要である。
- ・ 日本の技術であれば実現可能なものが沢山にある。マッチングがなされていないだけのように思える。またこの分野の機器開発は、お金にならないから参入しないなどの問題もある。
- ・ 作る人は、製作したものを毎日でも試して欲しいとする意見があった。

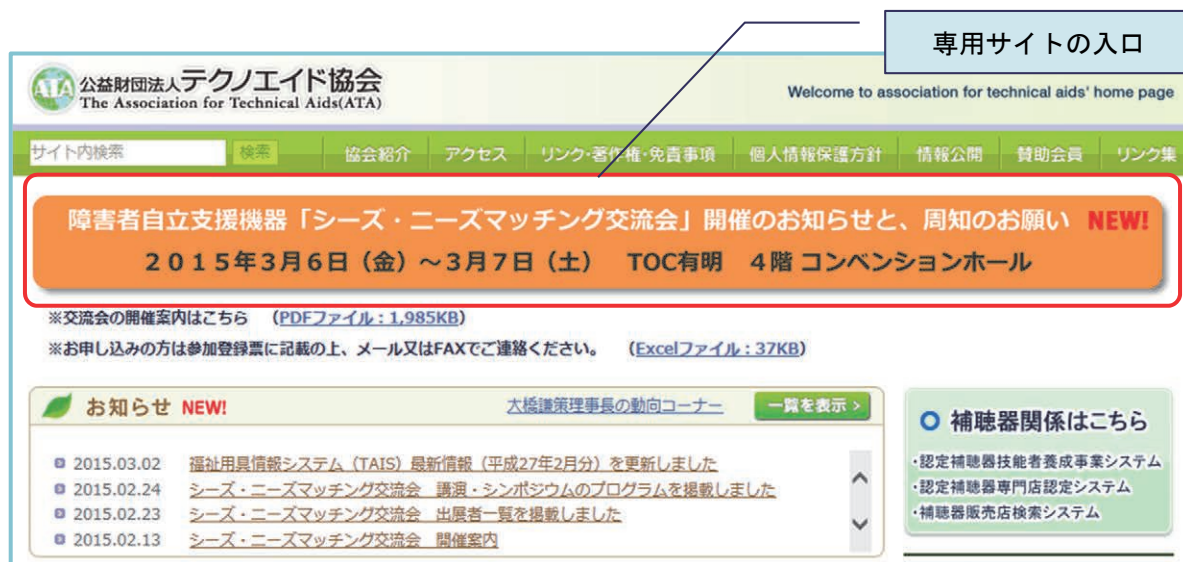
- ・ ニーズ情報システムを活用して、障害者から定期的にニーズを収集し、HPなどで情報提供することが大切である。
- ・ 経済産業省と厚生労働省など、省庁が異なると、助成の対象先や仕組みが異なるため、関係者が協力・連携し合いながら、助成金が活用できるようにしたい。
- ・ 団体で現行の制度等についての要望を取り纏めているが、今後は、福祉機器についての要望もまとめようと考えている。毎年聞き取り調査を実施しているので、情報を提供したい。
- ・ 海外製品がよく売れることがあるが、海外製品に頼らなくても良いよう、日本も戦略的に機器開発に取り組んでいただきたい。いずれは日本から自立支援機器の輸出をすることに期待したい。

1.1. ホームページの開設

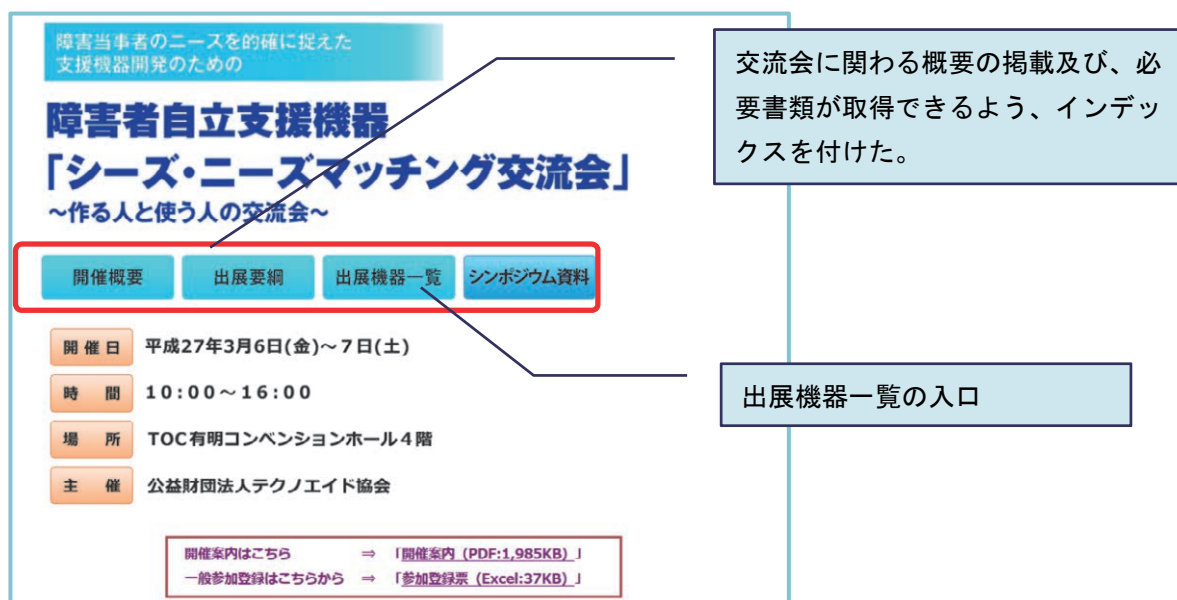
(1) 「シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト」の構築

シーズ・ニーズマッチング交流会の一般参加者周知及び、出展公募や出展機器一覧の情報提供を行うため、協会ホームページ内に新たに専用サイトを開設した。

(<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>)



「シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト」画面①



「シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト」画面②

（２）出展機器一覧の掲載

交流会開催後、出展企業から機器情報及び、今後の機器開発の進め方や抱負等について情報収集を行い、交流会へ参加できなかった全国の関係者へ専用サイトを通じ、情報提供行う方策を検討した。

収集した情報は「出展機器一覧」の項目からデータベース化し、検索及び閲覧できる仕組みを構築した。

(3) 出展機器一覧データベース

> 障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング強化事業

フリーワード：

障 害 分 野：

- ☐ 1. 肢体障害者の日常生活支援機器
- ☐ 2. 視覚障害者の日常生活支援機器
- ☐ 3. 聴覚障害者の日常生活支援機器
- ☐ 4. 盲ろう者の日常生活支援機器
- ☐ 5. 障害者のコミュニケーションを支援する機器
- ☐ 6. 障害者スポーツ用機器
- ☐ 7. 障害児の生活を豊かにする支援機器
- ☐ 8. その他

検 索 クリア

**フリーワード検索及び、
障害分野別検索が可能**

ブース 番 号 ▲	名 称 ◯	サムネイル	障害分野 ◯	出展者 ◯	セールス ポイント ◯	採択 状況 ◯
26-A01-01	スポーツ用義足 KATANA-R		6. 障害者スポーツ用機器	株式会社 今仙技術研究所	本格的な競技までは望まないが、スポーツレクリエーションへのモチベーションがある義足ユーザーに向けたモジュール型義足パーツ。	3. 厚生労働省
26-A01-02	スポーツ用義足 KATANA-R用 フットカバー		6. 障害者スポーツ用機器	株式会社 今仙技術研究所	本格的な競技までは望まないが、スポーツレクリエーションへのモチベーションがある義足ユーザーに向けたモジュール型義足パーツ。	3. 厚生労働省
26-A01-03	スポーツ用義足 KATANA-R用 スライドコネクタ		6. 障害者スポーツ用機器	株式会社 今仙技術研究所	本格的な競技までは望まないが、スポーツレクリエーションへのモチベーションがある義足ユーザーに向けたモジュール型義足パーツ。	3. 厚生労働省

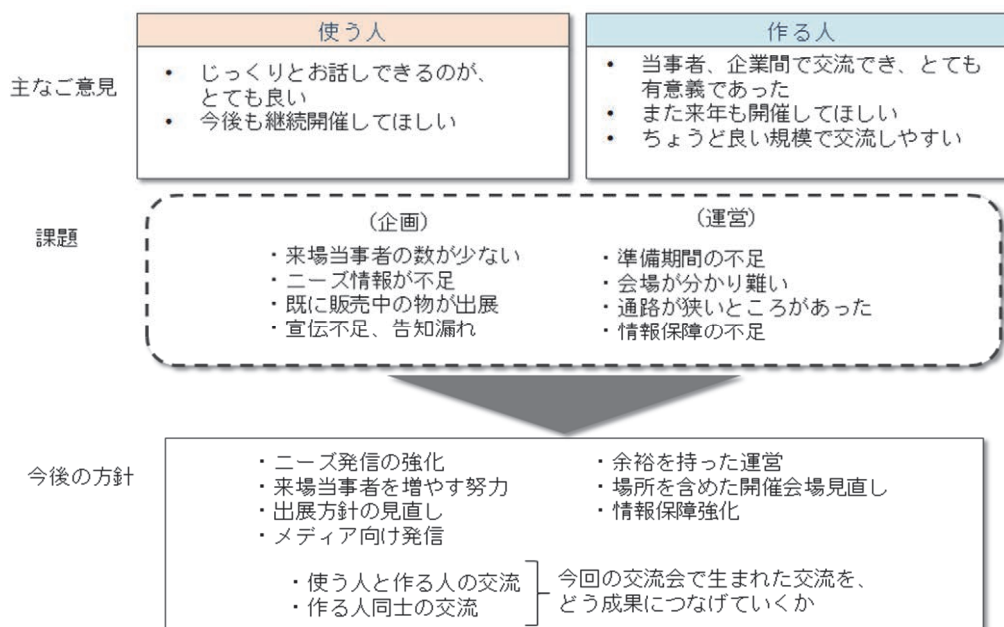
出展機器一覧データベース イメージ例

出展機器一覧表（サムネイル表示）
並び替え可能

12. 本事業を終えて

交流会を終えて、検討委員会でのご意見やアンケート調査等の結果から今回の課題を抽出し、今後の交流会のもちかた及び、交流会後のフォローアップ等の在り方について考察することとする。

(1) シーズ・ニーズマッチング交流会について

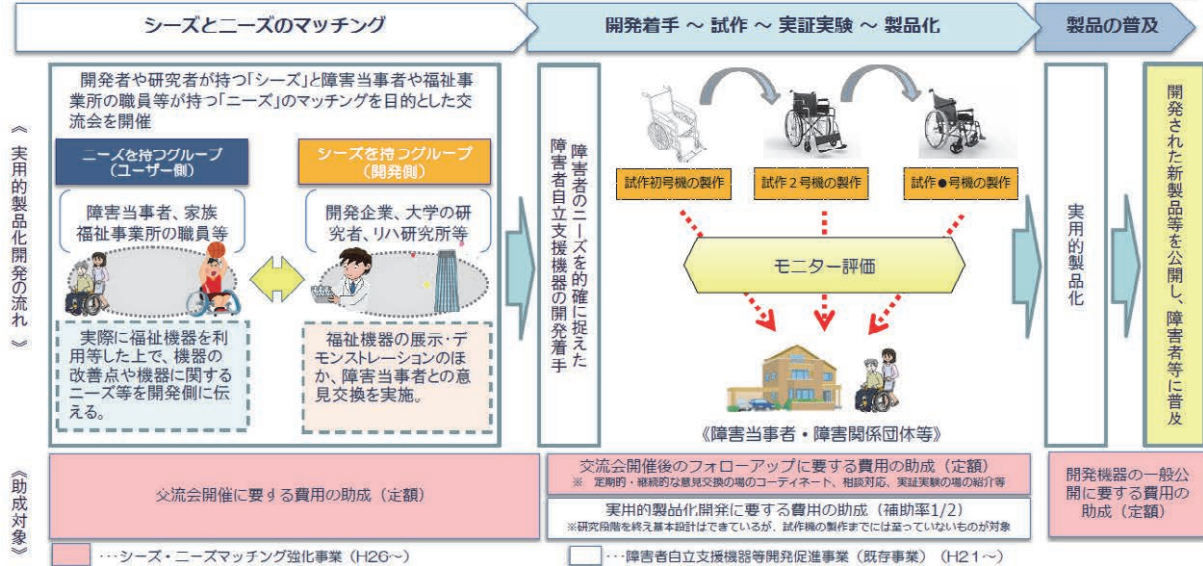


(2) 交流会後のフォローアップ

- 本交流会に来場することのできない方へ、如何にして情報提供するか検討を要する。合わせて、来られない方からどのようにしてニーズを収集するか検討することが必要である。
- フォローアップ事業として、実際の開発に繋がるものであったか確認すること。さらに新たな課題やニーズにも適宜適切に対応できる体制を構築することが必要である。
- 交流会前にあらかじめ障害当事者の課題を調査・集約し、その課題に対応する企業や研究者等を募る。その上で技術の限界と現場の実態や課題の摺り合わせを行うことが必要である。
- 現場の真のニーズに応じた製品開発を推進するためには、要望や課題に対して、迅速かつ柔軟な対応が求められるところであり、試作器を何度も繰り返し作成し、モニターを何回か繰り返すことが重要である。こうしたニーズに対応可能な仕組み・体制づくりの構築が必要である。
- 合わせて開発や利活用を支援する人材データベースの設置も求められる。
- 開発中の支援機器に関する情報提供は、利用者は勿論のこと市町村や企業等に対しても積極的に情報提供する必要がある。

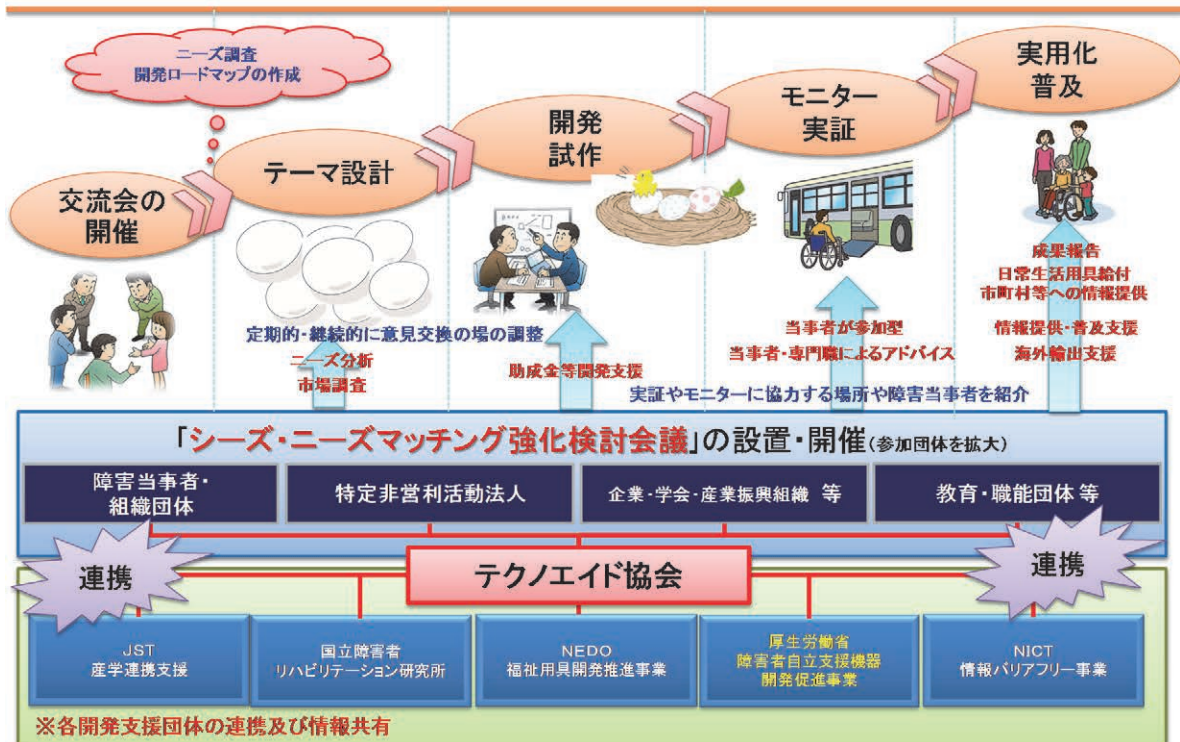
障害者自立支援機器等開発促進事業

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠であるが、障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化）が進んでいない状況にある。こうしたことから、
 ア) 産・学・障害者の知識・技術を結集し、個別具体的な**障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設ける**、
 イ) 開発中の機器について、ニーズに合ったものとなっているか**実証実験する場所を紹介する**、
 ウ) 各開発機関が行う**実用的製品開発に要する費用の一部を助成する**
 ことにより、機器開発分野への新たな参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図る。



シーズ・ニーズマッチング強化事業の概要

障害者自立支援機器の開発・普及



シーズ・ニーズマッチングによる製品開発から利活用

Ⅱ．資料編

- 1．出展要綱
- 2．交流会プログラム
- 3．交流会の出展した機器一覧
- 4．シーズ・ニーズマッチング強化事業の実施について

一般応募：締切日 2月10日（火）

障害者自立支援機器
「シーズ・ニーズマッチング交流会」

— 出 展 要 綱 —

【開催日】平成27年3月6日（金）、7日（土）

【時 間】10：00～16：00

【場 所】TOC有明コンベンションホール4階

EASTホール（E1～E5）

東京都江東区有明3-5-7

【準備日】平成27年3月5日（木）

【入場】無料

主 催
公益財団法人テクノエイド協会

■ 目 的

障害者の自立支援機器開発につきましては、日頃より格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、当協会では、障害当事者の方が抱えるニーズと機器開発企業が持つシーズを持ちより、新たな支援機器開発の機会の創出を図るため、「シーズ・ニーズマッチング交流会（以下、本交流会）」を開催いたします。

幅広い分野の障害当事者団体及び機器開発企業・研究者等が一堂に会し、障害当事者の生活や課題を知るとともに、現在開発中の機器を体験しご意見をうかがう大変貴重な機会です。

オープンな雰囲気の中で交流を深めることにより、今後の機器開発に寄与していただきたく、本交流会への出展をご検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。

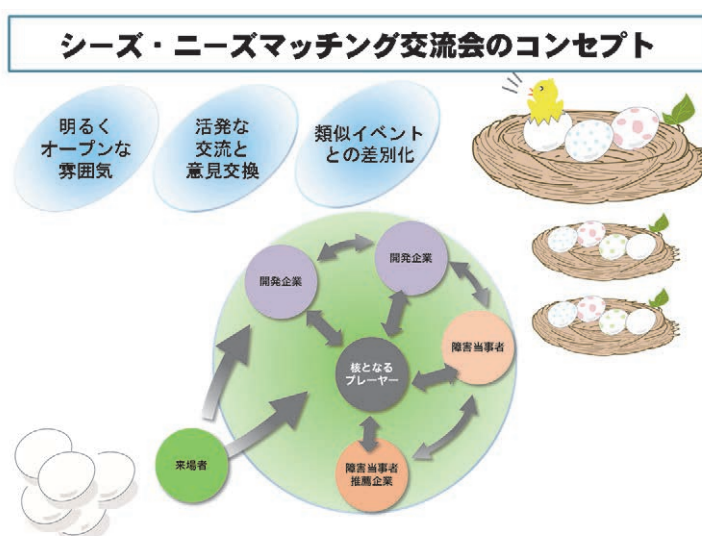
■ 内 容

障害当事者団体や支援機器開発団体等がブースを出展し、ご来場いただく方々とともにシーズ・ニーズの交流を図ります。

また、NEDO、NICTなど開発支援を行う機関のブース等も設置していただく予定です。

【当事者団体】

- ①日本身体障害者団体連合会
- ②全国脊髄損傷者連合会
- ③日本ALS協会
- ④日本盲人会連合
- ⑤ろう教育の明日を考える連絡協議会（検討中）
- ⑥全国盲ろう者協会
- ⑦全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ⑧ポリオの会
- ⑨自閉症サポートセンター



【開発支援機関】（予定）

- ①NEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）
- ②NICT（独立行政法人 情報通信研究機構）
- ③JST（科学技術振興機構）（パンフレットのみを検討）
- ④国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ⑤厚生労働省自立支援振興室
- ⑥公益財団法人テクノエイド協会

■出展詳細

【出展対象者】

- ①障害者向けの支援機器を開発中の企業で、試作器等の機器を出展して頂ける企業
- ②出展お申込みを頂いた後に、出展社を決めさせていただきます。

※ 原則、新規シーズに基づく開発品を出展頂ける企業を優先致しますが、既存製品の改良を検討している企業も応募できます。

【出展製品に関する条件】

- ①開発、改良を目的とした製品であること
- ②障害当事者等と交流を深め、支援機器開発の新規参入を計画している企業

※ 本交流会は販売促進を目的としたものではありません。

【募集企業予定数】 60社程度

※ 但し、既に各障害者団体から推薦された企業がございますので、実際にはこの数より少数となります。

※ また、出展希望多数の場合は、お断りすることがございますのでご了承ください。

※ 結果は事務局から電話又はメールにてお知らせいたします。

【申込締切】

平成27年2月10日（火）までに、別添の「**出展申込書**」にてお申込みください。

【出展料】

無料

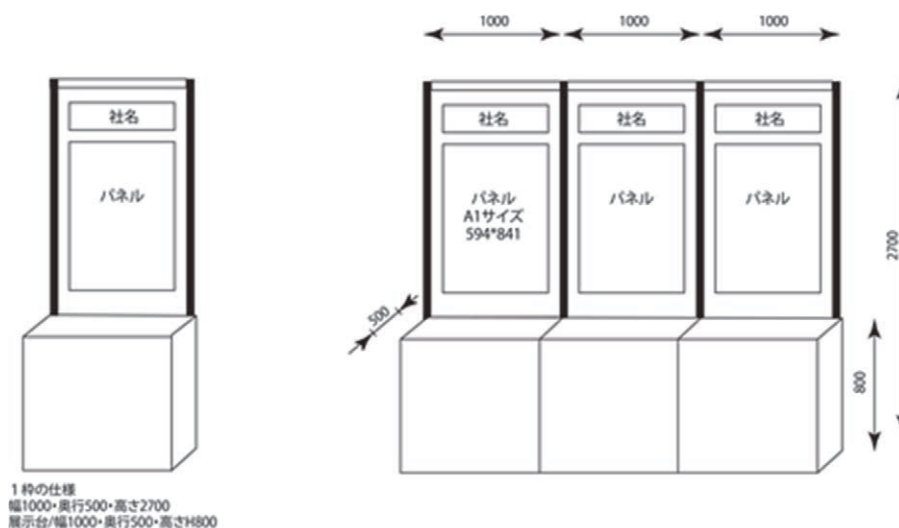
※ 但し、動力電源は別途ご出展者様負担となります。詳しくは事務局まで確認してください。

【展示小間仕様】

- ① サイズ：1小間当たり 約幅1000・奥行500・高さ2700（1企業あたり最大2小間まで使用可能とします）

（展示台 約幅1000・奥行500・高さ800）

（小間仕様は下図をご参照ください）



② 基本設備：上記展示台、パネル掲示展示壁面、社名プレート

※ 法人出展者様の製品展示パネル制作費は含まれておりません。個々にご用意、お持ち込みください。

※ モニタ、動力電源は別途ご出展者様負担となります。後日ヒアリングの上お見積りをご提示します。

※ アンカーボルトはご利用いただけませんので、予めご了承ください。

■開催までのスケジュール

2月 4日（水）	一般募集枠の出展申込み受付開始
2月10日（火）	申込み受付を終了
2月13日（金）	出展者を決定
（結果は事務局から電話又はメールにてお知らせいたします。）	
3月 5日（木）	15:00～18:00 搬入、ブース装飾加工（予定）
3月 7日（土）	16:00～17:30 搬出、撤去（予定）

■出展規定

① **出展の申込み**

出展申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局にメールにてお送りください。なお、出展内容が本展示会の開催趣旨にそぐわないと主催者が判断した場合、主催者は出展受付のお断り、また出展受付の取り消しができます。これにより生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負いません。

② **出展の取り消し**

出展の取り消しは、展示開催日の3週間前までに書面により主催者に通知しなければならない。

③ **小間位置の決定**

主催者は、出展者の業種、出品物の種別、小間形状、出展申込書の受理順、会場の構成などを勘案のうえ、小間の割り当てを行い出展者に連絡致します。また主催者は入場者整理の都合上、または展示効果向上のために小間の割り当てを変更する場合がございます。出展者は、小間の割り当ておよびその変更に対する異議申し立てならびに賠償責任等を問うことはできません。

④ **小間の転貸等の禁止**

出展者は、自らの小間を主催者の承諾なしに転貸、売買、交換あるいは譲渡することはできません。

⑤ **会場内の行為の制限**

出展者は主催者の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

⑥ **駐車場**

搬出入等で車をご利用の場合は、会場であるＴＯＣ有明の駐車場をご利用ください。

⑦ **管理保全**

主催者は管理者としての注意を持って会場全般の管理にあたります。ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。また、主催者は出展物の損害に対しての一切の保証責任を負いません。

⑧ **損害賠償**

出展者およびその代理人が他社の小間、主催者の運営設備または展示会場の設備および人身等に損害を与えた場合、また搬出入時や交流会時に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、主催者は一切責任を負いません。出展物の輸送および展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策をお願い致します。

⑨ **消防・安全**

出展者は、会場に適用される消防および安全にかかわる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

⑩ **展示会の中止**

主催者は天災などの不可抗力により、展示会開催が困難と判断した場合、展示会の開催を延期または中止することがあります。また、その際に生じた損害について主催者は責任を負わないものとします。

⑪ **法的保護等**

本展示会におけるアイディアの模倣および商談等に関するトラブルについては、主催者は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

⑫ **法令、規約の厳守**

出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、主催者が定める一連の規約（出展申込書、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。万一、法令、規約に違反した場合、主催者は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負わないものとします。

⑬ **シーズ・ニーズ調査へのご協力をお願い**

テクノエイド協会では、今後更なる課題解決に役立つ福祉機器開発を促進したく、皆様のシーズやニーズ情報を収集させて頂きたいと考えております。交流会会場等で、アンケートや調査を実施させて頂きますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

■ **交流会と合わせて行うイベント（予定）**

【**基調講演及び基調報告等**】 6日に実施

① **基調講演**

「自立支援機器開発に対する期待と役割について（仮称）」

日本作業療法士協会 会長 中村春基

②基調報告

「3Dプリンタを活用した支援機器の開発（仮称）」

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 硯川 潤

③現場報告

「自立支援機器を活用した活動と参加について（仮称）」

- ・ 自閉症サポートセンター 松井宏昭
- ・ チャレンジド・コミュニティ 金井光一
- ・ 生活サポートみらい 石崎洋子
- ・ メッセージ花くじら 石田 眞

【公開シンポジウム】6日に実施

「開発・市販化に向けての苦労話と成功事例」

座長：国立障害者リハビリテーションセンター 諏訪 基

自立支援機器を開発する企業各者

【併催イベント】7日に実施（予定）

主催：国立障害者リハビリテーションセンター研究所

会場：同会場

◎「ニーズ&アイデアフォーラム（N I F）」の開催

◎「支援機器の利活用と新たな開発を促進する情報基盤機構」シンポジウムの開催

本交流会に支援機器の出展をご希望する方は、別添「出展申込書」に所定の事項を記入し、下記メールアドレス宛て送信してください。（FAXでの申込は受け付けられません。）

送付先メールアドレス：kiyono-kei@plantec.co.jp

（事務局：株式会社プランテックコンサルティング）

【本件に関するお問い合わせ先】

（交流会全般について）

[	公益財団法人テクノエイド協会 162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階 企画部 五島・谷田・渡辺 TEL：03-3266-6883	]
---	--	---

（出展詳細について）

[	株式会社プランテックコンサルティング 102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル7階 マネージャー 清野・井田（クオリクス） TEL：03-3237-3548	]
---	--	---

「シーズ・ニーズマッチング交流会」事務局 あて

※出展申込は、事務局(株式会社プランテックコンサルティング)まで申込書を送付願います。

送付先メールアドレス: kiyono-kei@plantec.co.jp

シーズ・ニーズマッチング交流会 出展申込書

フリガナ		T E L	
会社名		F A X	
団体名			
住所	〒	担当部署・役職	
		フリガナ	
		氏名	
ホームページ		E-mail	

☐ シーズ・ニーズ マッチング交流会の出展規定を了承し、出展を申し込みます ※左記口チェックをつけてください

出展内容	・下記①～⑤につき、全てお答えください。 ①製品名: () ②対象ユーザー: () ③製品の状況(○をつけてください): 新規開発製品である ・ 既存製品の改良版である ④製品の特徴: ⑤製品のサイズ: (縦 X 横 X 高さ) ※製品の画像をメールに添付願います。 ⑥ご希望の使用小間数: (小間) ※ご使用可能な小間数は、1社あたり2小間とさせていただきます。 ⑦製品の展示にあたり、必要な環境:
	(1) いずれかの団体から、開発補助事業等の採択または推薦を受けていますか。(○をつけてください) A) 受けている(推薦応募) B) 受けていない(一般応募) (2) 上記(1)で、A) 受けている(推薦応募)を選ばれた場合、下記リストより該当する採択団体または推薦団体にチェック願います。 ☐ 厚生労働省 自立支援振興室(障害者自立支援機器等開発促進事業) ☐ NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構) ☐ NICT(情報通信研究機構) ☐ JST(科学技術振興機構) ☐ 日本身体障害者団体連合会 ☐ 全国脊髄損傷者連合会 ☐ 日本ALS協会 ☐ 日本盲人会連合 ☐ ろう教育の明日を考える連絡協議会 ☐ 全国盲ろう者協会 ☐ 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 ☐ ポリオの会 ☐ 自閉症サポートセンター

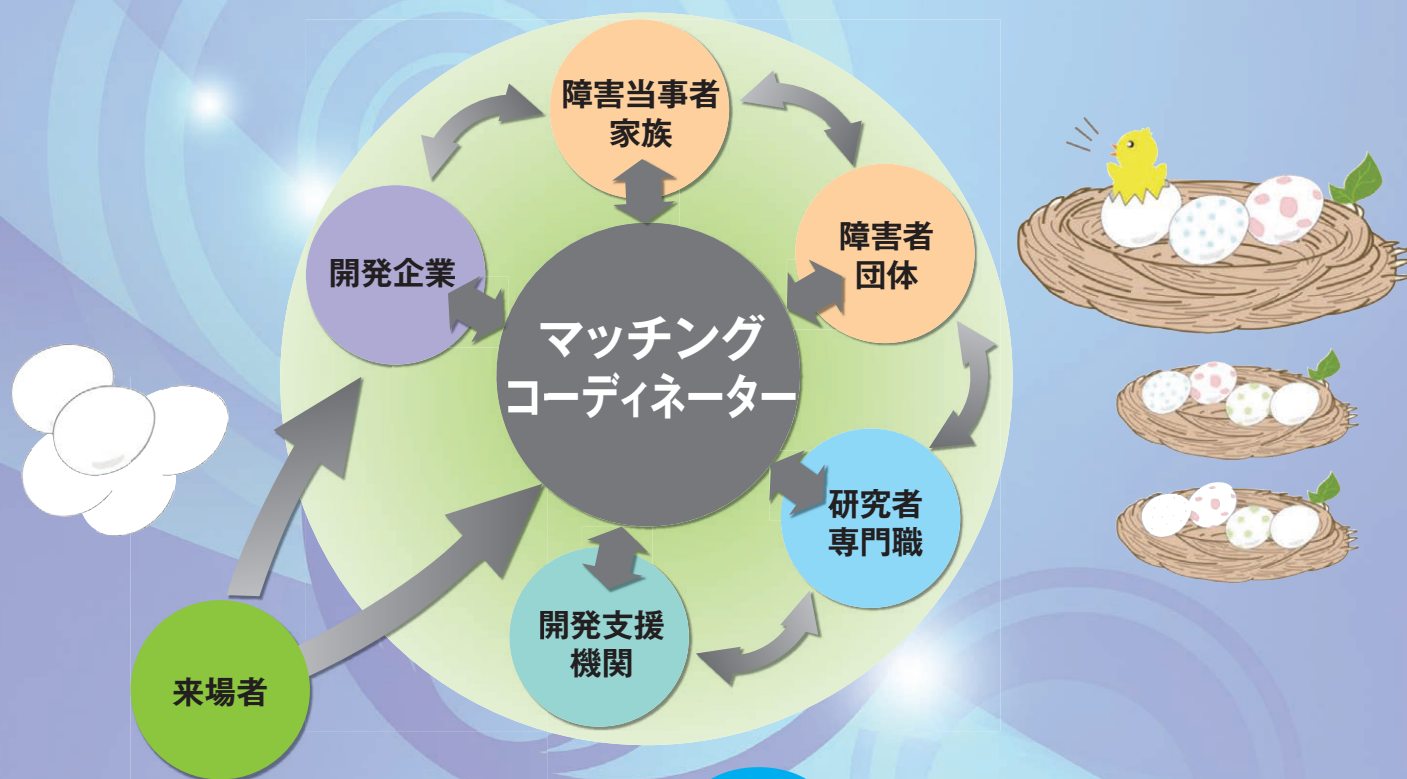
採択および推薦団体の情報	
--------------	--

障害者自立支援機器 「シーズ・ニーズ マッチング交流会」

～作る人と使う人の交流会～

※厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 一般公開

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ・ニーズのマッチング交流会を開催いたします。交流会では、開発や改良等を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、この分野への新規参入の促進を図ります。



開催日 平成27年3月6日(金)～7日(土)
時 間 10:00～16:00
会 場 TOC有明コンベンションホール4階
主 催 公益財団法人テクノエイド協会

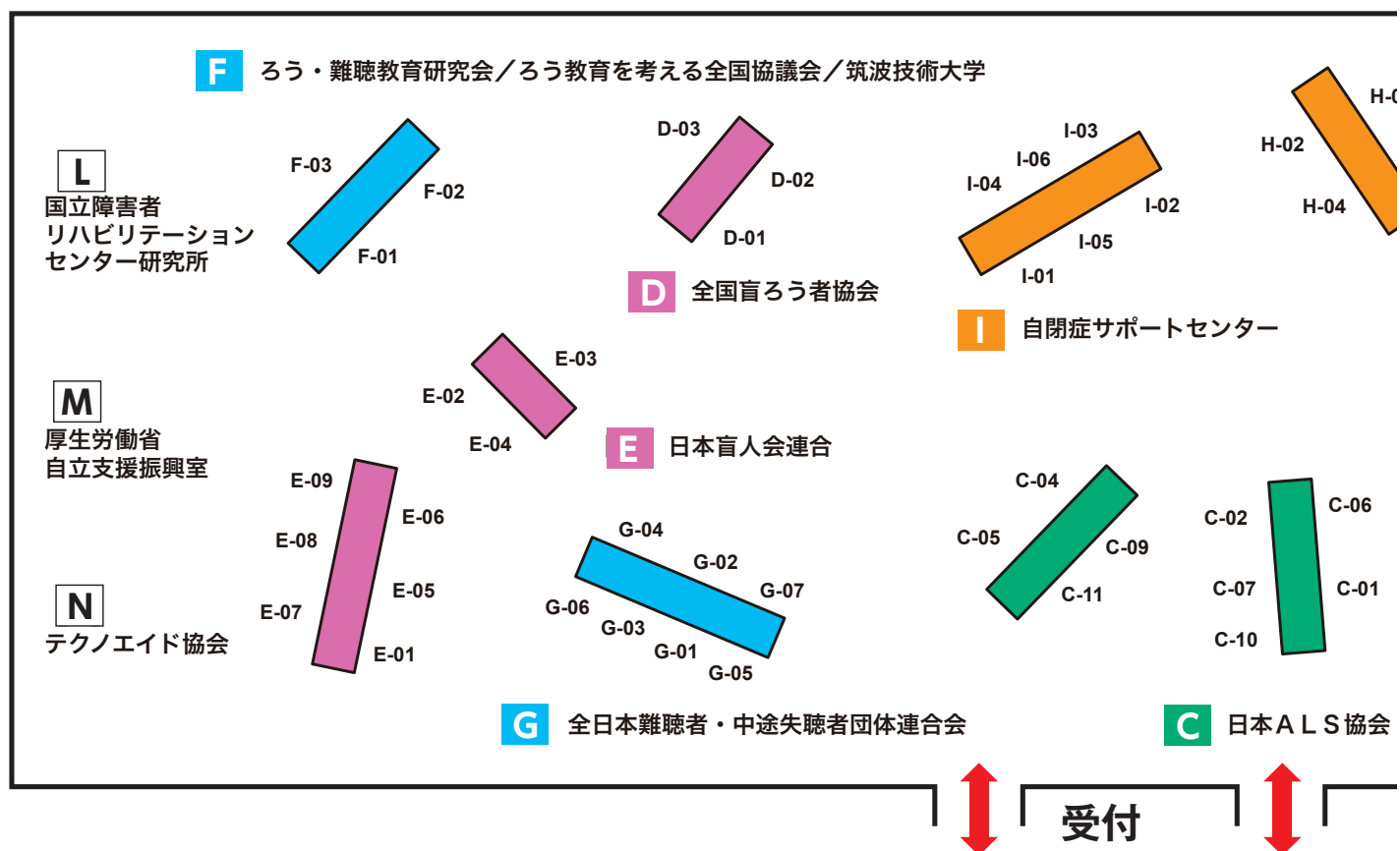
入場無料

<参加対象>

障害当事者、家族、研究者、
専門職、障害団体、
全ての支援機器開発企業 等



EASTホール 交流会会場



出展者一覧

A 障害者団体 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

A-01	厚労省事業	株式会社今仙技術研究所
A-02	NEDO事業	川村義肢株式会社 東京本社
A-03	NEDO事業	有限会社さいとう工房
A-04	NEDO事業	株式会社スマートサポート
A-05	NEDO事業	ダイヤ工業株式会社
A-06	機器開発	株式会社アイ・レーベル
A-07	機器開発	株式会社ソフトシーデシー
A-08	機器開発	ナブテスコ株式会社
A-09	機器開発	日本セイフティー株式会社
A-10	機器開発	株式会社プロップ
A-11	機器開発	株式会社ミツバ
A-12	機器開発	株式会社JINRIKI
A-13	厚労省事業	株式会社ミハマ

B 障害者団体 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

B-01	厚労省事業	株式会社日本アシスト
B-02	厚労省事業	株式会社ルミナスジャパン
B-03	機器開発	株式会社アグメント
B-04	機器開発	横浜ゴムMB ジャパン株式会社

C 障害者団体 一般社団法人 日本ALS協会

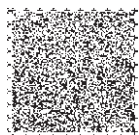
C-01	厚労省事業	株式会社オリイ研究所
C-02	NEDO事業	有限会社オフィス結アジア
C-03	機器開発	株式会社ウェルパートナーズ
C-04	機器開発	株式会社スマイル介護機器販売
C-05	機器開発	テクノツール株式会社
C-06	機器開発	パナソニック エイジフリーライフテック株式会社
C-07	機器開発	パシフィックサプライ株式会社
C-08	機器開発	有限会社パムック
C-09	機器開発	株式会社ヒューマンテクノシステム
C-10	機器開発	株式会社日立ケーイーシステムズ
C-11	機器開発	事業主代表 宮内唯

D 障害者団体 社会福祉法人 全国盲ろう者協会

D-01	厚労省事業	日本精工株式会社
D-02	機器開発	株式会社画像聴覚化研究所
D-03	機器開発	一般社団法人日本電子出版協会 ビジネス研究委員会

E 障害者団体 社会福祉法人 日本盲人会連合

E-01	厚労省事業	株式会社ゴビ
E-02	機器開発	株式会社KOSUGE
E-03	機器開発	有限会社テイクス
E-04	機器開発	株式会社テックアイオーサービス
E-05	機器開発	株式会社西澤電機計器製作所
E-06	機器開発	特定非営利活動法人日本視覚障がい情報普及支援協会
E-07	機器開発	パナソニック株式会社
E-08	機器開発	富士電子株式会社
E-09	機器開発	レハ・ヴィジョン株式会社



WESTホール

講演 シンポジウム 会場

身障者用トイレ



受付

受付

A 日本身体障害者団体連合会

J
新エネルギー
産業技術総合
開発機構
NEDO

K
情報通信
研究機構
NICT

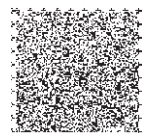
B 全国脊髄損傷者連合会

H ポリオの会

13

F 障害者団体 (共同ブース)		ろう・難聴教育研究会 NPO 法人 ろう教育を考える全国協議会 国立大学法人 筑波技術大学
F-01	厚労省事業	株式会社アイセック・ジャパン
F-02	厚労省事業	ユニバーサルサウンドデザイン株式会社
F-03	NICT事業	株式会社 SOBA プロジェクト
G 障害者団体		一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
G-01	機器開発	株式会社アドバンスト・メディア
G-02	機器開発	株式会社日本コクレア
G-03	機器開発	シャムロック・レコード株式会社
G-04	機器開発	株式会社ソナール
G-05	機器開発	株式会社プラスヴォイス
G-06	機器開発	NPO 法人 メディア・アクセス・サポートセンター
G-07	機器開発	株式会社東京信友
H 障害者団体		ポリオの会
H-01	機器開発	株式会社キザキ
H-02	機器開発	株式会社スワニー
H-03	機器開発	タチイス株式会社
H-04	機器開発	あい・あーる・けあ株式会社
I 障害者団体		NPO法人 自閉症サポートセンター
I-01	厚労省事業	株式会社ソキエ
I-02	厚労省事業	株式会社マイクロブレイン
I-03	機器開発	株式会社アイエスゲート
I-04	機器開発	株式会社アクセスインターナショナル
I-05	機器開発	株式会社スタンダード
I-06	機器開発	株式会社ユープラス

J 開発支援機関	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO
K 開発支援機関	独立行政法人 情報通信研究機構 NICT
K-01	機器開発 株式会社フィート
K-02	機器開発 ユニバーサルコミュニケーション研究所
L 開発支援機関	国立障害者リハビリテーションセンター研究所
M 開発支援機関	厚生労働省自立支援振興室
N 開発支援機関	公益財団法人テクノエイド協会
開発支援機関	独立行政法人 科学技術振興機構 J S T ※パンフレットのみで出展



出展者紹介

A

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

●障害者の立場から、人権の保障、社会参加の促進、すべての人の社会「Society for All」の実現、障害の種別や有無にとらわれず、全国組織の当事者団体で連携し、国や政党に対し政策提言や要望など幅広い活動を行っています。

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
A-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社今仙技術研究所	スポーツ用義足	〒509-0109 岐阜県各務原市テクノプラザ 3-1-8 【TEL】 058-379-2727 【FAX】 058-379-2726
A-02	●NEDO 福祉用具実用化開発推進事業 川村義肢株式会社 東京本社	肩サポート	〒136-0073 東京都江東区北砂 1-19-9 【TEL】 03-5635-1611 【FAX】 03-5635-1612
A-03	●NEDO 福祉用具実用化開発推進事業 有限会社さいとう工房	多機能型電動車椅子 レル・ライト	〒130-0004 東京都墨田区本所 4-27-3 【TEL】 03-3621-0508 【FAX】 03-3621-0537
A-04	●NEDO 福祉用具実用化開発推進事業 株式会社スマートサポート	スマートスーツ	〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 5 丁目 7 番地愛生館ビル 6 階 【TEL】 011-206-1462 【FAX】 011-206-1463
A-05	●NEDO 福祉用具実用化開発推進事業 ダイヤ工業株式会社	空気圧サポーターパワー アシストグローブ、 電動義手 Finch	〒701-0203 岡山市南区古新田 1125 【TEL】 086-282-1245 【FAX】 086-282-1246
A-06	株式会社アイ・レーベル	サドル付歩行器 AR-5	〒399-8101 長野県安曇野市三郷明盛 2050 【TEL】 0263-88-8163 【FAX】 0263-88-8166
A-07	株式会社ソフトシーデージー	協調運動評価装置	〒320-0861 栃木県宇都宮市西 2-2-35 【TEL】 028-633-5411 【FAX】 028-633-5412
A-08	ナプテスコ株式会社	義足継手(電子制御義足継手ALLUX他)、 抑速ブレーキ付歩行車(コンパルリハモ)	〒651-2135 神戸市東灘区魚崎浜町 35 【TEL】 078-413-2724 【FAX】 078-413-2725
A-09	日本セイフティー株式会社	ラップボン・エブリ	〒112-0002 東京都文京区小石川 13-11 トビテア小石川梅津ビル 【TEL】 03-5689-5953 【FAX】 03-5689-5957
A-10	株式会社プロップ	見える化薬箱	〒162-0808 東京都新宿区天神町 8 番地 神楽坂ビル 4 階 【TEL】 03-5206-8766 【FAX】 03-5206-8760
A-11	株式会社ミツバ	立上り補助機能つき歩行器、 電動移乗器、電動つえ	〒376-8555 群馬県桐生市広沢町 1-2681 【TEL】 0277-54-5942 【FAX】 0277-52-0183
A-12	株式会社 JINRIKI	JINRIKI、JINRIKIUICK	〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪 1536 【TEL】 050-5835-1000 【FAX】 0265-98-8921
A-13	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社ミハマ	介護リフト型歩行アシスト	〒739-0046 広島県東広島市鏡山三丁目 13-60 【TEL】 082-431-3738 【FAX】 082-431-3739

B

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

●1959 年の設立当初から一貫して、「重い障害があっても普通に暮らせる社会」を目標に全国各県・支部と共に、障害者のための社会環境を変える活動を行っている。
●移動は、全て車いすを使用する生活になることから、そのためのバリアフリー化の充実を求める声が多い。また、障害者の高齢化も進み、
若いときのしっかりした動作もやがて高齢化で体力や機能が衰え、車いすからトイレやベッド、風呂場、自動車などへの移乗が徐々に困難になり転倒などの家庭内事故が増えている。このため、脊髄損傷者は移乗による事故を無くすための自立支援機器や褥瘡のできない車いす、排泄に関する機器などを要望している。

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
B-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社日本アシスト	ロボット便座	〒541-0021 大阪市天王寺区東高津町 11 番 9 号 上本町ビル 8 階 【TEL】 06-6765-2888 【FAX】 06-6765-2887
B-02	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社ルミナスジャパン	力伝達型アクティブギブス	〒959-3134 新潟県村上市羽ヶ榎 68 【TEL】 0254-62-2332 【FAX】 0254-62-2589
B-03	株式会社アグメント	ステップ昇降車いす、 座面昇降車いす	〒300-2656 茨城県つくば市真瀬 569-10 【TEL】 029-838-0912 【FAX】 029-836-7213
B-04	横浜ゴムMB ジャパン株式会社	除圧機能付車いす用空気式 クッション メディエア	〒104-0031 東京都品川区西五反田 1 丁目 30 番 2 号 ウィン五反田 5F 【TEL】 03-5745-9865 【FAX】 03-5745-9867

一般社団法人 日本ALS協会

C

- 「ALS 患者が人間としての尊厳を全うできる社会の実現を目指すと共に、ALS の原因究明と治療法の確立をはかること」を目的に、啓発広報・療養支援・研究助成などの活動。
- 病気の進行とともに、手足の障害、嚥下の障害、コミュニケーションの障害、呼吸の障害が進行して、それぞれの進行状況に合わせた福祉用具や医療機器などを利用しています。コミュニケーションと呼吸の障害は、社会で生きる人としての尊厳を失う、生命を失う危険性を孕んでい

ますので、特に、コミュニケーション支援と医療的ケアの拡充に向けた活動に力を注いでいます。

- 障害の進行段階にあわせて、臨機応変にパーツを入れ変えながら使える、自分仕様の福祉用具や、対応が難しいといわれる、コミュニケーション支援のための、さまざまな手段を用いた意思伝達装置の開発を望んでいます。

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
C-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社オリィ研究所	OriHime (視線操作型)	〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-3-11 アール三鷹 502 【TEL】 080-4337-7304 【FAX】 なし
C-02	●NEDO 福祉用具実用化開発推進事業 有限会社オフィス結アジア	指伝話(ゆびでんわ)シリーズアプリ、 指伝話2ME(アダプタ)	〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 607-1 藤沢商工会館 3F-14 【TEL】 0466-21-7448 【FAX】 0466-21-7996
C-03	株式会社ウェルパートナーズ	介護リフト スマイル	〒700-0923 岡山県岡山市北区大元駅前 6-21 【TEL】 086-227-0131 【FAX】 086-227-6132
C-04	株式会社スマイル介護機器販売	自動排泄処理装置「スマイレット安寝」 改良型「本体」と「カップ」	〒105-0023 東京都港区芝浦 1-9-8 TBBビル5F 【TEL】 03-6435-4216 【FAX】 03-6435-4217
C-05	テクノツール株式会社	なんでもワイヤレス、 上肢装具MOMO	〒206-0802 東京都稲城市東長沼 2106-5 らびるビル4 階 【TEL】 042-370-6377 【FAX】 042-370-6378
C-06	パナソニック エイジフリーライフテック 株式会社	意思伝達装置レッツ・チャット	〒571-8686 大阪府門真市大字門真 1048 【TEL】 06-6908-8141 【FAX】 06-6908-4506
C-07	パシフィックサプライ株式会社	スイッチアジャスター、 コネクトコール	〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1 【TEL】 072-875-8008 【FAX】 072-875-8010
C-08	有限会社パムック	人工呼吸器搭載型車いす各種、 シーティング機器各種	〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎町 2-16-2 【TEL】 03-5666-4801 【FAX】 03-5666-4802
C-09	株式会社ヒューマンテクノシステム	自分の声ソフトウェア ボイスター	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 エコム人形町ビル2F 【TEL】 03-5847-1206 【FAX】 03-5847-1207
C-10	株式会社日立ケーイーシステムズ	重度障害者用意思伝達装置 「伝の心」	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野 7-1-1 【TEL】 047-472-6638 【FAX】 047-472-6551
C-11	事業主代表 宮内唯	Click2Speak、 Gazespeaker	〒262-0014 千葉市花見川区さつきが丘 1-35-11-204 【TEL】 080-3201-1969 【FAX】 なし

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

D

- 当協会は、視覚と聴覚の両方に何らかの障害を併せ持つ「盲ろう者」の福祉を目的とする唯一の社会福祉法人として、盲ろう者や、盲ろう者を支援する通訳・介助員らを対象とした様々な事業を行っています。
- 現在、日本に約 1 万 4 千人いるとされる盲ろう者の多くは、65 歳以上の高齢者です。盲ろう者は、障害の特性上、主に 3 つの困難（他者と

のコミュニケーション、移動、情報入手）を抱えていると言われます。外出して買い物をすることもできれば、テレビやラジオを楽しむこともできず、点字を知らない人は本を読むことさえできません。また、家にいても、家族がコミュニケーション方法を身につけていなければ、会話を楽しむこともできないのです。

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
D-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 日本精工株式会社	視覚障がい者向け ガイダンスロボット	〒251-8501 神奈川県藤沢市鵠沼神明 1-5-50 【TEL】 0466-21-3291 【FAX】 なし
D-02	株式会社画像聴覚化研究所	画像聴覚化装置	〒106-0032 東京都港区六本木 4-2-20-203 【TEL】 03-5545-5565 【FAX】 03-5545-5565
D-03	一般社団法人日本電子出版協会 ビジネス研究委員会	コンセプト展示 音声付き電子書籍の 新業務フローとEPUB/TTS	〒101-0061 千代田区三崎町 2-9-2 鶴屋総合ビル4F 【TEL】 03-3556-5224 【FAX】 03-3556-5259

出展者紹介

E

社会福祉法人 日本盲人会連合

●視覚障害者自身の手で、“自立と社会参加”を実現しようと1948年に組織された全国組織で、都道府県・政令指定都市における61の視覚障害者団体の連合体です。

●全く見えない人や視力が弱い人周囲が見えにくい人真ん中が見えにくい人大きな文字なら読める人明るいときぼしい人などいろいろな見えにくさの人がいます。そのような人たちに対して「使いやすくする工夫」として、音声を用いたり、触覚に訴えたり、色の配色を考慮したりさまざまな工夫を日常の用品に適用する工夫が求められています。そのような工夫ができる業者の皆さんの提案を求めています。

出展No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
E-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社ゴビ	視覚障害者歩行支援用 電子点字ブロック	〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134番地 京都サ-パ-フ 【TEL】075-315-3621 【FAX】075-315-3653
E-02	株式会社 KOSUGE	振動発電により LED点滅点灯する白杖	〒173-0013 東京都板橋区氷川町11-11 【TEL】050-3372-3002 【FAX】050-3737-4957
E-03	有限会社テイクス	パームライン	〒244-0842 横浜市栄区飯島町1579-1 【TEL】045-890-6898 【FAX】045-890-6899
E-04	株式会社テックアイオーサービス	ポータブル紙幣識別機 「Wallet」	〒212-0032 神奈川県川崎市幸区新川崎7-7 KBIC 205号 【TEL】044-589-5270 【FAX】044-589-5271
E-05	株式会社西澤電機計器製作所	拡大読書器 NVS-X1	〒389-0601 長野県埴科郡城町坂城6249 【TEL】0268-82-2900 【FAX】0268-82-1730
E-06	特定非営利活動法人 日本視覚障がい情報普及支援協会	音声コード Uni-Voice	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-6-16 エオビル703 【TEL】03-3208-5023 【FAX】03-3208-5025
E-07	パナソニック株式会社	液晶テレビ、BDレコーダー、 ICレコーダー	〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006番地 【TEL】0120-878-365 【FAX】0120-878-236
E-08	富士電子株式会社	明暗センサー	〒990-2251 山形県山形市立谷川2丁目1114 【TEL】023-686-4141 【FAX】023-686-4142
E-09	レハ・ヴィジョン株式会社	カラートークプラス	〒923-1211 石川県能美市旭台2-13 いしかわ創イノベーション 【TEL】0761-51-0016 【FAX】0761-51-0017

F

①ろう・難聴教育研究会／②NPO法人 ろう教育を考える全国協議会／③国立大学法人 筑波技術大学

①聴覚障害教育の改善をめざす当事者・親・教員などが長年活動を継続する全国組織です。研究会や討論集会の開催、会報発行によるオピニオン形成や情報発信、教材の開発・発行も行っています。

②毎年ろう教育を考える全国討論集会を開催し、ろう教育の課題について討論すると共に、会報を発行している。ろう教育改革の指針作成や授業で使用する手話の開発を行ってきた。

③筑波技術大学は日本でただ一つの視覚障害者、聴覚障害者のための高等教育機関です。

●聴覚障害教育で全否定されていた手話が肯定され活用されるようになって10年余り。歴史が浅いため手話を活かした日本語や教科に関する効果的な教育法がまだ確立されておらず、手話そのものを学習する教材や手話を通して日本語力や学力を高める教材も不十分な現状があり、その改善が求められています。

出展No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
F-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社アイセック・ジャパン	字幕電話	〒904-1103 沖縄県うるま市石川赤崎2丁目20-1 IT事業支援センター4号館 【TEL】098-923-2891 【FAX】098-923-2897
F-02	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 ユニバーサルサウンドデザイン株式会社	COMUOON (コミュニケーション)	〒105-0022 東京都港区海岸1-7-8 東京都立産業貿易センター浜町館6階 【TEL】03-6427-1467 【FAX】03-6745-3329
F-03	●情報通信研究機構 情報バリアフリー事業助成金 採択企業 株式会社 SOBA プロジェクト	複数情報伝達モードを 備えたユニバーサルな 電話リレーサービスの提供	〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93 京都サ-パ-フ4号館4階 【TEL】075-323-6066 【FAX】075-323-6067

G

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

●全国の難聴者・中途失聴者への福祉施策の充実と社会の理解を求め、必要なコミュニケーション手段の調査研究等を行い、障害者の社会的地位向上と社会参加を促進しています。

●社会生活を営む上での必要な情報が提供されることが、難聴者の社会参加を促進します。そのための補聴器や人工内耳、それにつながる磁気ルー

ブの敷設充実は、聴覚補償に関する支援です。また要約筆記事業を進めることによる文字による通訳活動や、インターネットを使った代理電話サービスなどが現在進められています。これらに加えて、新しいテクノロジーによる文字情報の伝達手段の進歩が進んでいます。音声認識技術の向上、携帯端末への表示などの最新の研究成果をご確認ください。

出展No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
G-01	株式会社アドバンスト・メディア	音声認識技術 AmiVoice®Cloud	〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館6階 【TEL】03-5958-1031 【FAX】03-5958-1033
G-02	株式会社日本コクレア	人工内耳システム一式	〒113-0033 東京都文京区本郷2-3-7 お茶の水元町ビル 【TEL】03-3817-0241 【FAX】03-3817-0245

82

G-03	シャムロック・レコード株式会社	コミュニケーション支援アプリ 「UD トーク」シリーズ	〒176-0012 東京都練馬区豊玉北 5-7-14-502 info@shamrock-records.jp
G-04	株式会社ソナール	難聴者支援用 (バス・車両用) 車載型ヒアリンググループ (磁気ループ) システム	〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町 93 京都リサーチパーク 6 号館 302 【TEL】 075-315-5561 【FAX】 075-315-5625
G-05	株式会社プラスヴォイス	代理電話サービス/遠隔(手話・文字)通訳サービス 遠隔筆談コミュニケーションアプリ「手書き電話UD」 筆談+音声認識コミュニケーションアプリ「UD手書き」	〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1 丁目 8-14 仙台協立第二ビル 8F-1 【TEL】 022-723-1261 【FAX】 022-723-1262
G-06	NPO 法人 メディア・アクセス・サポートセンター	ネット字幕読みDVDプレーヤー 「おと見」 誰でも簡単字幕制作ソフト 「おこ助」 音声透かしを使った情報保障アプリ 「UDCast」	〒164-0011 東京都中野区中央 2-9-1 サンロータスビル 401 【TEL】 03-5937-2230 【FAX】 03-5937-2233
G-07	株式会社東京信友	聴覚障害者屋内信号装置 シルウォッチ 番号呼び出し気 シルボード	〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-5 新宿 KM ビル 【TEL】 03-3358-8000 【FAX】 03-3358-6330

ポリオの会

H

- ポリオとポストポリオ症候群の患者会です。ポリオとPPS(ポストポリオ症候群、ポリオ後症候群)の医療を求め、情報を知り、伝え合い、広く知ってもらうために活動しています。
- ポリオは足の麻痺だけでなく、上下肢や体幹麻痺、呼吸や嚥下、排泄

など多岐にわたり、日々の生活全般の困り事への細やかな対処を必要としています。装具の蒸れや汗、冷え、転倒(浴室他)、支持装置、上肢装具、快適な車いすなど。一人ひとり違う障害への対応が必要です。福祉情報も必要としています。

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
H-01	株式会社キザキ	スマートボール	〒384-0061 長野県小諸市加増上の平 561-2 【TEL】 0267-22-1354 【FAX】 0267-23-5556
H-02	株式会社スワニー	SWANY Mini 自走式、 SWANY Mini 介助式	〒769-2795 香川県東かがわ市松原 981 【TEL】 0879-25-0252 【FAX】 0879-25-0340
H-03	タチイス株式会社	タチイス	〒166-0003 東京都高円寺南 5-36-12-101 【TEL】 03-6304-9626 【FAX】 03-6304-9627
H-04	あい・あーる・けあ株式会社	NEWユニドライブ	〒125-0032 東京都葛飾区水元 2-21-2 【TEL】 03-5660-7701 【FAX】 03-5660-7703

NPO法人 自閉症サポートセンター

I

- 自閉症など発達障害のある方の育成及び地域生活の支援を行うとともに、その家族及び関係者への支援並びに地域住民に対する啓発活動を行うことを目的として活動しています。
- 1. 「時間やことばの理解を助ける支援機器」、「気持ちなどを伝えるコミュニケーションを助ける支援機器」、「かっこいい間仕切り」、「不

- 快音の遮断機器」の開発
- 2. こどもの療育を対象とした機器の開発、形状は、「携帯タイプ」
- 3. 何らかの財政措置を伴った「お試し期間」の設定
- 4. 最初のアセスメントから使用中のアドバイスまで、専門家の介入が必要

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
I-01	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社ソキエ	知的障害者向け 見守りシステム	〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-6-12 曙ビル4F 【TEL】 03-5809-2457 【FAX】 03-5809-2454
I-02	●厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業 株式会社マイクロブレイン	はっするでんたー	〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町 1-958-1 KCビル3-3F 【TEL】 048-687-9841 【FAX】 048-687-9716
I-03	株式会社アイエスゲート	医療問診支援システム、 認知症予防支援システム ソフトウェア	〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目 20 番 2-401 号 【TEL】 03-5879-4527 【FAX】 03-5879-4528
I-04	株式会社アクセスインターナショナル	タイムタイマー、イヤーマフ、 リーディングルーラー、 あのね♪DS ほか	〒123-0871 東京都足立区椿 1-1-12 【TEL】 03-5856-9611 【FAX】 03-5856-9623
I-05	株式会社スタンダード	療育・自立支援用スモック	〒114-0012 東京都北区田端新町 3-4-3 【TEL】 03-5855-1781 【FAX】 03-5855-1782
I-06	株式会社ユープラス	トーキングエイド for iPad	〒124-0012 東京都葛飾区立石 7-7-9 【TEL】 03-5654-6763 【FAX】 03-5654-6763

出展 No.	企業／団体名	出展製品	問合せ先
K-01	株式会社フィート	聴覚障がい者と健聴者の円滑な コミュニケーション支援するアプリ 「こえとら」	〒169-0072 東京都新宿区大久保一丁目 1 番 7 号 高木ビル4F 【TEL】 03-5287-7391 【FAX】 03-3204-5984
K-02	独立行政法人 情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所	SpeechCanvas (スピーチキャンバス)	〒619-0289 京都府相楽郡精華町光台 3-5 【TEL】 0774-98-6300 【FAX】 0774-98-6955

<講演・シンポジウム>WESTホール 3月6日(金)

※情報保障として、パソコン要約筆記・磁気テープをご用意しております。

●基調講演 「自立支援機器開発に対する期待と役割について」

10:30～11:10

日本作業療法士協会 会長 中村 春基

●基調報告 「3Dプリンタが拓く新たな支援機器デザインの可能性」

11:10～12:00

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

- ① 3Dプリンタと支援機器 ～個人利用から生産技術まで～ 福祉機器開発室長 硯川 潤
- ② 3Dプリンタの義肢装具への応用可能性 主任義肢装具士 中村 隆
- ③ デジタル生産技術：DDMで広がる超ユニバーサルデザイン 福祉機器開発部研究員 高嶋 淳

●現場報告 「自立支援機器を活用した活動と参加」

13:00～13:20

NPO法人自閉症サポートセンター 松井 宏昭

13:20～13:40

NPO法人チャレンジド・コミュニティ 金井 光一

13:40～14:00

NPO法人生活サポートみらい 石崎 洋子

14:00～14:20

NPO法人メッセージ花くじら 石田 眞

●シンポジウム 「開発・市販化に向けての苦労話と成功事例」

14:30～15:45

【座長】 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 諏訪 基

株式会社アドバンス・メディア 中村 雅巳(厚労省採択企業)

株式会社スマートサポート 鈴木 善人(NEDO採択企業)

株式会社SOBAプロジェクト 乾 和志(NICT採択企業)

セコム株式会社 石井 純夫(前テクノ採択企業)

パナソニックエイジフリーライフテック株式会社 松尾 光晴

日本電気株式会社 北風 晴司

みんなで考えよう支援機器開発

障害者自立支援機器

「シーズ・ニーズ マッチング交流会」

～作る人と使う人の交流会～

【開催日】3月6日(金)～7日(土)

【時 間】10:00～16:00

【場 所】TOC有明コンベンションホール4階

【主 催】公益財団法人 テクノエイド協会

<交流会>

EAST ホール 3月6日(金)～7日(土)

<講演・シンポジウム>

WEST ホール 3月6日(金)

エビデンスが支える
開発から利活用まで

支援機器利活用拡大 シンポジウム

～情報基盤構築で進める
イノベーション創出～

【開催日時】3月7日(土) 10:00～17:30

【場 所】WEST HALL W-5&W-4

【主 催】国立障害者リハビリテーション
センター研究所

福祉のモノづくり人材教育

ニーズ&アイデア フォーラム (NIF)

～医療福祉系、デザイン系、
工学系の学生の混合チームによる
障害者支援機器の考案～

【開催日時】3月7日(土) 10:00～16:15

【場 所】WEST HALL W-1&W-2

【主 催】ニーズ&アイデア フォーラム
プロジェクトチーム

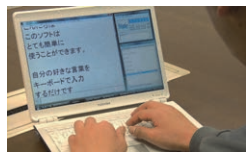


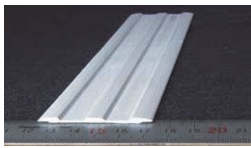
■お問い合わせ(事務局) 〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4階
公益財団法人テクノエイド協会 企画部 谷田、五島、渡辺
TEL: 03-3266-6883 URL: <http://www.techno-aids.or.jp/>

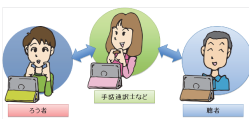
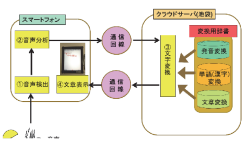
出展機器の一覧

1. 交流した内容

コメント	出展番号	企業名	出展製品
ユーザ当事者はごく少数の来訪でしたが、シーズ側で展示されておられる方々や普段中々お話しが出来ない、各業界の重鎮の方々とゆっくりお話しが出来たことが、とても有難い機会でした。シーズとニーズとの交流とのことでしたが、ニーズ側が少なかったように思いました。またシーズ関連の方同志が協力して生み出すことがこれから大切なシステムになってくると考えます。その意味でもこの交流会が次の時代のニーズになることを思います。	A-03	有限会社 さいとう工房	
機器開発に必要なユーザの意見を多く得ることができた。	A-04	株式会社 スマートサポート	
交流会を通して本機器のニーズを再確認できました。	A-05	ダイヤ工業 株式会社	
今回参加しまして、企業様とコラボ出来るような感じになりました。弊社も協力していただける企業様を探していましたので良かったです	A-06	株式会社 アイ・レーベル	
今回の交流会のおかげで、商品を皆様に知っていただく貴重な機会をいただきました。	A-07	株式会社 ソフトシーデーシー	
他のユニークな福祉機器を開発しているメーカーとも交流する機会を持って、将来の製品開発への刺激とヒントが得られた。	A-08	ナブテスコ 株式会社	
ゆったりとしたブースレイアウトで、実際に使用して頂きながら商品説明及び御意見を頂くことができた。また、出展企業間の交流も積極的に行なわれ、新たな開発商品の引合いを頂くことができた。	A-11	株式会社 ミツバ	
ルミナスジャパンの小林さん、さいとう工房の斎藤さんと新製品についての考え方を教えてください、大いに啓蒙されました。	B-01	株式会社 日本アシスト	
本展示機器の対象は現在、脊髄損傷者に絞っているが、今回の交流会では脊髄損傷の方はあまり見られず、ALSの患者様ニーズが来場した来場者や出展者から聞けた。ALSについては本機器の機構に+αして対応を考えていたので聞けた意見は参考になった。	B-02	株式会社 ルミナスジャパン	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
車いす関連の出展者でスワニー様や福祉用具販売のバムック様と出展者同士の交流をさせ頂き、今後の開発及び、販売促進活動にプラスとなりました。来場者では、埼玉大学の琴坂教授から貴重なご意見を頂き、また障害者支援施設はくちょう園の川田理事長より、障害者の日常使用についてのご意見を頂きました。展示会の運営についても、無料の飲み物の準備などホスピタリティ面で行き届いていると感じました。	B-04	横浜ゴムMBジャパン株式会社	
意思伝達装置を開発しているほかの開発者と意見交換を行った。また、ALSの患者さまなどを対象にプレゼンを行い、認知度を上げることができたと感じられている。	C-01	株式会社 オリィ研究所	
交流会では、他社の技術と弊社のインターフェースを合わせた製品の開発の可能性があります。	C-02	有限会社 オフィス結アジア	
脳性マヒ患者などの不随意運動が起こる方には、腕を望むところで止めるような機能のアームサポートが必要だということがわかった。	C-05	テクノツール株式会社	
スイッチアジャスターについて、動作確認音の音量調節機能追加の依頼がありました。また、無線機能をオプションとし、本体のみの販売を希望する意見がありました。本交流会の準備に際し、多様なご苦労があったかと存じますが、時間的に余裕を持った運営をお願いさせて頂けると恐縮です。	C-07	パシフィックサプライ株式会社	
意欲的な開発が多く、参考になりました。	C-08	有限会社バムック	
今回、多くの当事者、ご家族や支援者、医療・福祉関係者の方々と交流させて頂き、「自分の声」を残すことの生活における大切さを、あらためて強く感じる事ができました。一方、既にボイスターを使われている方の、思わぬボイスター利用の近況などを知ることができ、大変うれしく感じました。 声を失われる方以外からも「自分の声」（「あの人の声？」）のニーズ ー例えば、電子書籍の読み上げや、PCやロボットの応答音声などへの適用ーを、当事者・現場関係者から直接伺えたことも大変印象的でした。	C-09	株式会社 ヒューマンテクノシステム	
病院で使用して頂くことを想定していたが、商業施設（スーパー等）にニーズがあるという意見を複数頂いた。	D-01	日本精工株式会社	
本装置にとって音（含、音声）が重要な情報伝達手段であるため、膨大な音情報の処理にあたって、合成音技術など参考になる情報を得た。	D-02	株式会社 画像聴覚化研究所	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
当事者の方や障害者支援機器を開発されている他の企業様にご覧いただき、多くのご意見をいただくことができた。直前に京都および東京での実証実験を行ったが、考慮すべき点等その際とほぼ同様のご意見が多く、今後の開発を進める上で大変有効であった。	E-01	株式会社ゴビ	
当社開発の折り畳み白杖のガタツキ防止技術が、他分野の杖に適用できるのではと接触に生まれ、技術紹介をした。 今回の展示会に、視聴覚等の学校関係者が来られたのかは不明だが、もし少ないようであったのであれば、顕在ニーズもしくは潜在的ニーズを持っている方との接触できる場になることを期待します。	E-02	株式会社KOSUGE	
視覚障害者には、うまく誘導できることを、車イスや支持杖利用者などには、歩行に邪魔しにくいことを実感していただいた。あわせて、お互いが共存しながら、発展していける解決案になるとの抱負と提案をした。	E-03	有限会社テイクス	
視覚障がい関係者からの販路のアドバイスを頂く場や障がい者向けの教育題材としての意見交換の場として交流が深まり有意義でした。直接使用する方々の来訪は少なく製品アドバイスは皆無でした。開発中の製品の告知には効果的な場を提供していただき感謝いたしております。	E-04	株式会社 テックアイオーサービス	
拡大読書器は、障害者でなくとも必要との声あり。音声ガイドについては、不要時に切り替え可能かであります。読み書きだけでなく、爪切り、折り紙等手作業にも向いていて便利とのこと。他社の展示者との交流では、特に印象に残ったものが、上肢動作支援ロボットアクティブギプスおよび目だけで操作が可能な分身ロボットOriHimeでありました。	E-05	株式会社 西澤電機計器製作所	
①盲ろう団体と意見交換。音声コードの点字出力との連携。 ②ロボットの機能として、行政、銀行等から送られてくる帳票を、ロボットのカメラにより音声コードを読み取り、特に他人に読んで欲しくない個人情報等を自身が確認する機能の組込等の意見交換を行った。	E-06	特定非営利活動法人 日本視覚障がい情報 普及支援協会	
視覚障害者支援団体、視覚障害者当事者と実機による操作体験を通じて、音声読み上げ機能等に関する意見交換を実施。今回は、リモート視聴アプリを利用した宅外視聴の体験も行なうことができ、機器本体に加えてアプリケーションを活用して機能強化を図ることができる。また、いつも使用する情報端末（スマホ等）を使うため、新たに操作機器のリモコンボタンの配置など覚えなくても良い。などのご意見をいただきました。	E-07	パナソニック株式会社	

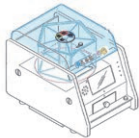
コメント	出展番号	企業名	出展製品
日本盲人会連合からの紹介で参加しましたが、他の開発企業と交流と情報交換ができ有意義な時間となりました。障害者の方からの評判は良かったと思います。弊社の展示ブースが入り口から一番奥になったため、目立たなく他のブースより人通りが少ない様に思われました。	E-08	富士電子株式会社	
共同開発・助成スポンサーを求めたが、今回は出会えませんでした。	E-09	レハ・ヴィジョン株式会社	
今回の交流会でも聞こえに不自由を抱えている当事者の皆さんから、今後使いたいとの声をたくさんいただきました。	F-01	株式会社 アイセック・ジャパン	
製品のデモンストレーションや要望のヒアリングを行いました。	F-03	株式会社 SOBAプロジェクト	
今回の交流会ではシンポジウムのパネリストとして参加させていただいたが、各社のパネリストが同じような問題点や意見を持っていることを確認できました。もう少し時間をいただいて、パネリスト同士の意見交換ができてよかったと思います。	G-01	株式会社 アドバンスト・メディア	
具体的にニーズがある方たちが訪れてたように思います。現実には話ができとても有意義な交流会でした。	G-03	シャムロック・レコード株式会社	
①会場の印象・会場全体が広く余裕があり、また障害の目的別に展示コーナーが配置され、対応が取りやすかった。 ②展示ブース・ソナールブースとしての反省は、ヒアリングループ（磁気ループ）は一見解りやすく、キャッチコピーの必要を感じた。会場の雰囲気がよく説明しやすい環境であった。展示に関しても専門スタッフの方が非常に親切に対応していただき良かった。 ③成果および問題点・様々な立場の人（難聴者、厚労省、リハビリセンター、補聴器工業会、大学教授、弁護士、その他）と説明を通して接点を持つことができ有意義であった。バスループは多くの方に必要性を感じていたが、今後の社会モデルになるよう推進する使命を感じた。ループの知名度、認知度を上げるためにも身近なループの普及は必要です。残念なことは国関係で国交省の方に会えなかったこと。	G-04	株式会社ソナール	

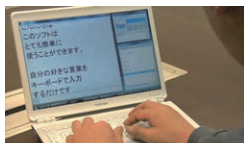
コメント	出展番号	企業名	出展製品
弊社ブースへの来場者にはそれぞれのサービス・アプリ製品についての概要や使い方、メリットなどについてご説明をさせていただいた。	G-05	株式会社 プラスヴォイス	
視聴覚障害者の当事者とその介助者に開発の紹介をした。また、実際に自分の提供するサービスに情報保障として導入を検討している事業者の方から相談を受けた。	G-06	NPO法人 メディア・アクセス ・サポートセンター	
交流会では個人の方、聴覚障害者関連団体の方など多くの方々から番号呼び出し器の普及に賛同する声を頂いた。振動で知らせるオプション受信器により呼び出し番号を見続けていなくてもいいのは大変助かるという声多数。番号を音声でも知りたい、待ち時間も表示して欲しいという希望もあった。	G-07	株式会社東京信友	
弊社の機器は使う人がより健康になるという事を重点に開発をして参りましたが、今回の交流会に参加させて頂き非常に多くの方のご意見を聞く中で、より安全に使用できる物の開発の必要性を感じました。	H-01	株式会社キザキ	
出展したSwany Miniに関して来場者様から参考になるご意見/要望等を頂く事ができた。また同会場に出展されていた多種多様な福祉機器メーカー様との交流も出来、今後の商品開発のヒントを得ることが出来ました。	H-02	株式会社スワニー	
たくさんの方にデザインや機能をお褒め頂き素直に喜んでいます。また、オリンピックやコーヒESHOPなどへの売り込みのアドバイスを頂きました。	H-03	タチイス株式会社	
大規模なHCR（福祉機器展）などとは違い、実際に開発を進める企業の担当者が障害を持つ当事者や他の分野の開発担当者やと密に交流することができ、前向きな深い議論のできる大変有意義な会であったと思います。今回出品した製品でない開発中の製品についても、いろいろとヒントをいただきました。これらをもう一度整理しなおし、今後の開発に繋げていく予定です。	H-04	あい・あーる・けあ 株式会社	
多言語問診システムについて、オリンピック・パラリンピックで検討するといテーマとの意見を頂きました。	I-03	株式会社 アイエスゲート	
今回の交流会をとおして、ユーザーが困っていることや必要としていることなど、じっくりと情報交換ができました。	I-04	株式会社 アクセスインターナショナル	

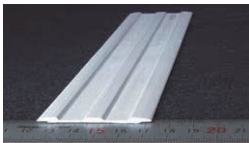
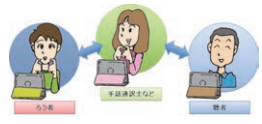
コメント	出展番号	企業名	出展製品
当日は、障がい当事者やそのご家族・研究者・障がい団体・出展者の方々と広く意見交換やヒアリングを行ない、交流を図ることができた。中でも、弊社製品のユニバーサルボタン仕様については、片麻痺等肢体不自由児（者）の方々のみを対象とすることを想定していたが、視覚障がい当事者の方から頂いた貴重なご意見（宿泊先でのガウン等衣類に有効なボタンである、とのこと）は、その対象や展開を広げる大きなヒントとなった。また、隣接する出展者同士の交流に伴う協力関係により、今後の開発や展開に関する新たな手法を見出すことにも繋がった。	I-05	株式会社スタンダード	
他企業との情報交換を行うことができた。	I-06	株式会社ユープラス	
福祉分野の展示会は初めての出展でしたが、既に当アプリをダウンロードしている来場者も多く、実際の使用する場面で求められている機能や、使用感など生の声を聞く事が出来てとても有意義な時間になりました。特にスマートフォンを使うのに慣れていない世代の方々にも使って頂いているのを見る事ができて、様々の方に求められているのだと言う事を実感できたのが大きかったです。	K-01	株式会社フィート	
今回の交流会では、当事者、支援する関係者、出展者など様々な立場の方から、アプリを試した感想やご意見、利用用途の提案、利用技術の質問や相談、など多岐にわたる情報交換を行うことができました。	K-02	ユニバーサルコミュニケーション研究所	

2. 今後の機器開発の進め方や抱負

コメント	出展番号	企業名	出展製品
スポーツ用義足は公費支給対象として認められていない為、気軽にスポーツを始めることが難しい状況にある。その為、義肢部品メーカーとしてできる限り、安価に部品供給できるように努めたいと思います。	A-01	株式会社 今仙技術研究所	
今までの肩装具の設計コンセプトを超えたTシャツのように簡単に着れる商品の完成を目指したい！	A-02	川村義肢株式会社 東京本社	
当社も「レル・コミュニティ」と言う、障がい者就労支援型電動車椅子を開発する場を4月の開所予定で進めております。その場も正しく様々な方々と知恵を出し合って生み出す場としようと考え、「コミュニティ」と命名しました。	A-03	有限会社 さいとう工房	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
介護者ばかりではなく、腰痛に不安をかかえる作業者、高齢者の日常の生活を支援するためにも使用可能であり、スマートスーツの開発のコンセプトである「軽労化」を積極的にうたえていきたい。	A-04	株式会社 スマートサポート	
●本機器の用途として大きく「日常生活用具」と「訓練用具」に分けられます。今後はそれぞれの目的に応じた仕様にすべく、当社がコルセット・サポーター開発で培ったノウハウを活かした“ウェアラブル”な用具開発を、交流した方々と密に連携を取りながら進めていきます。 ●第一弾の商品化は前腕切断者を対象とした仕様で進めていますが、第二弾、第三弾の仕様もすでに構想しており開発を進めています。多くの方々に手にとって頂ける製品にするため、交流した方々と密に連携を取りながら進めていきます。	A-05	ダイヤ工業株式会社	
センサーは商品として完成しておりますので、今後は必要な分野に試験導入させていただき、最終的には多くの分野・施設でシステムソリューションとして利用していただけたら幸いです。	A-07	株式会社 ソフトシーデシー	
モーターメーカーと協業（モーター購入）の可能性について検討、具体的に話を進展させていきたい。現在、弊社製品をお使いの医療福祉従事者からいただいた生の声も今後の製品開発にも生かしていきたい。	A-08	ナブテスコ株式会社	
介護ロボットの観点から、介助が必要な方がより使いやすいトイレを研究・開発していきます。	A-09	日本セイフティー株式会社	
病院・施設だけではなく、在宅での服薬管理の需要も高く、今後在宅向けの商品開発にも取り組みたいです。	A-10	株式会社プロップ	
障害者施設等と交流を深め、よりニーズを探りたい。	A-13	株式会社ミハマ	
今後の開発についても、いろんな企業様と情報交換を行い、車椅子からの移乗の工夫等、細やかな改善を図っていききたいと思います。	B-01	株式会社 日本アシスト	
今後も対象者の意見を参考に、ニーズを捉えた機器開発を行っていく。	B-02	株式会社 ルミナスジャパン	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
機能面では概ねよい評価をいただくことができたので、早期に販売を開始したい。いただいたご意見を基に、使い勝手の向上を図るため試作・開発を続けたい。	B-03	株式会社アグメント	
弊社では、車いす用のクッションだけでなく、現在ノーパンクタイヤを開発しております、まだまだ、材料開発の域をでないのですが、商品化に向けて、このような機会を得て、皆様のご意見を聞かせて頂けると幸いです。	B-04	横浜ゴムMBジャパン株式会社	
今後は購入補助制度もしくは介護保険の適用を目指し、開発を続けていく予定である。	C-01	株式会社オリィ研究所	
ユーザのご要望を叶えるために、自社技術だけにこだわらず、アイデアを出し合い、よりよい製品作りを目指します。もともと福祉機器開発として指伝話ができたのではなく、たまたまそれを便利に使ってくださる方がいたことから始まったという生い立ちがあります。ユーザさんを専用機器に閉じ込めるのではなく、自由に使っていただける汎用機器を利用することが、特にコミュニケーションに関する機器の場合は良いと考えています。	C-02	有限会社 オフィス結アジア	
色々な方に対応できる様サイズの問題やこのリフトを使い易くする為のオプション等の要望もあったので今後対応していきたい。	C-03	株式会社 ウェルパートナーズ	
弊社の既存製品（MOMO）とは正反対のニーズであるが、今後の開発候補としたい。	C-05	テクノツール株式会社	
従来の安定した動作を行い、フリーズしないと言う特徴を維持しながら、今後パソコンとの連携をどれだけ柔軟かつ簡単に実現できるかを検討することが最大の課題であると考えます。	C-06	パナソニック エイジフリーライフテック 株式会社	
今後は頂いたご意見に対して、販売コストとの兼ね合いを考慮しながら検討します。	C-07	パシフィックサプライ株式会社	
このような「自分の声」を残す方法があることをより多くの方に知っていただくと共に、全ての方が、自分が望めば「自分の声」をもっと簡単に残すことのできるシステムを実現しよう、という思いを強く持つことができました。開発当初の思いを忘れず、頑張りたいと思います。ありがとうございました。	C-09	株式会社 ヒューマンテクノシステム	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
2015年は普及版ロボットを開発。2016年に実用化を目指す。	D-01	日本精工株式会社	
将来的に事典など文字や図面情報の多い書籍を聴覚化するにあたって、合成音技術の進歩を見ながら導入を検討したい。一方、タッチパネル上の目的点的確に指先を誘導（しせん誘導）するため、初心者用に画面に被せて使用する補助的な触図の併用も考えている。	D-02	株式会社画像聴覚化研究所	
今後の進め方は●試作モデルで、実証テスト。●実用モデルを、先行販売。●制度の擦り合わせと、ガイドライン。●普及の仕組みを組織。●メーカー、施工業者などへ展開。	E-03	有限会社テイクス	
1. 視覚障害者用GUIアプリの開発 2. 病院、調剤薬局から発行される領収書、薬剤情報等の帳票に、音声コードを自動生成する仕組みを同時に開発、視覚障害者向けGUIアプリで実証評価を行いたい。これにより、電気、ガス、水道料金、銀行利用明細等の公共料金のみならず、行政から発行する税金、年金、選挙入場券、福祉認定通知書等の帳票発行システムに応用し、社会インフラに導入を図りたい。	E-06	特定非営利活動法人 日本視覚障がい情報 普及支援協会	
今後もアプリによる機能の強化に努めたい。	E-07	パナソニック株式会社	
以前に開発した「カラートークプラス」日常生活用具認定多数ですが、色の表現が解り難い等の問題点が発売当初からあり、国外の展示会でも、システム評価が高かったのですが、色の表現の問題で販売に結ばれ無かった後継機です。視覚障害者に取って、葬祭時等で真っ黒な服を選びたい。おしゃれをしたいは晴眼者と同じ。	E-09	レハ・ヴィジョン株式会社	
現在はAndroid端末での利用となっておりますが、日本で非常に利用者が多いiOSで利用できるように開発を進めています。また、今回の交流会の対象ではない、障害認定にはならないが音声聞こえづらくなっている高齢者などが最も利用したいのではないかと考えており、その層が利用することで、障がい者も使いやすい価格帯にしていきたい。	F-01	株式会社 アイセック・ジャパン	
今後も実際の利用者からのヒアリングを繰り返しながら、製品開発に取り入れていき、幅広く使われるサービスを目指したいと考えています。	F-03	株式会社 SOBAプロジェクト	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
聴覚障害者のためのコミュニケーション支援機器は専用機を開発するとコストが高くなるので、汎用品のスマートフォン、タブレット、PC等のIT機器を活用したアプリケーションでの開発となりますが、高齢者が多いのでIT機器の操作に慣れていないので機器が使いこなせないという大きな問題があります。高齢者や初心者でも以下の操作が簡単にできるIT機器の開発ができれば、福祉機器開発への波及効果は大きいと思います。インターネット接続、メール、インターネット検索、チャット、電話、各種アプリのダウンロードおよび起動また、初心者向けのIT機器操作の講習会を開くなどの普及活動が重要である。	G-01	株式会社 アドバンスト・メディア	
今後2020年の東京オリンピックに向け交通バリアフリーにループの対応を積極的にアピールし、全難聴はじめ難聴者の期待に応えられるよう導入につなげたい。	G-04	株式会社ソナール	
いずれのサービス・アプリ製品もすでに市場に提供し利用可能となっているものであるが、ITを活用していることにより、ITリテラシーの多寡により便利に使っていただける方とそうではない方に二極化が見られることや、普及や周知に関する課題が多い。それぞれが使いやすくなることが第一歩であると考え、必要な機能の吸い上げと付属へ向けた開発と、現在はそれぞれ個々のサービス・製品となっているが、提携しているShamrock Records株式会社の開発する「UDトーク」、株式会社アドバンスト・メディアの音声認識エンジンなどの活用も含め、それぞれが補完し合う形で組み合わせたパッケージとして作り上げ、聴覚障がい者がいかなる時にも困らないコミュニケーションサポートツールとして使えるように仕上げていくような進化を考えている。	G-05	株式会社 プラスヴォイス	
今後は複数の会社と提携して開発業務を拡大し、より多くのコンテンツに対応できるようにしていきたい。	G-06	NPO法人 メディア・アクセス ・サポートセンター	
普及の為、低価格で販売するために機能を絞る必要があるが、今回頂いたご意見ご要望は今後の開発に生かしていきたい。	G-07	株式会社東京信友	
これからさらに保険適応機器の指定に向けた開発を進め、より多くの方に弊社の機器を使って頂けるよう取り組んで参る所存です。また健康管理・体調管理や緊急時への対応までも出来るような仕組みを取り入れた機器の開発にも取り組んでいきたいと思ひます。	H-01	株式会社キザキ	

コメント	出展番号	企業名	出展製品
今回情報を収集した中で弊社のコンセプト（室内仕様/コンパクト性）に関しては受け入れられたが、それに見合った重量ではないと厳しいご意見も頂いた。今後は、このご意見を基にコンパクトで且つ軽量化に向けて開発を進めて行く予定です。また、その中でいかに価格を抑えるか課題になります。	H-02	株式会社スワニー	
今後については行ける時はどんどん積極的に売り込んでいきますが、基本的には身の丈に合わせ地道にコツコツ広げていきたいと考えています。	H-03	タチイス株式会社	
障害者、お年寄りやパラリンピックで来日される外国の方でも手軽に利用できるよう、アニメーションやイメージ図を組み合わせ改良を行っていきたくて考えております。	I-03	株式会社 アイエスゲート	
これらの情報を今後の機器開発に活かし、開発者とユーザーが共に製品を育てながら、単発の製品ではなく長期的なサービスとして提供していきたいと思えます。	I-04	株式会社 アクセスインターナショナル	
今後は、本交流会出展による経験を生かし、まず第一に、障がい当事者とそのご家族からのご意見に真摯に耳を傾け、それを製品の企画・製作や改善・改良に結びつける段階において、研究者・専門職・障がい団体や他企業の方々と密に連携を図りながら進めていくといった体制を、より具体的に構築したいと考える。	I-05	株式会社スタンダード	
トーキングエイド for iPadは販売開始から2年半が経過し、利用者から新たなニーズが出てきており、仕様を追加したバージョンアップを行いたい。ぽんぽんわーどは、アプリの種類を増やしてシリーズ化を行いたい。	I-06	株式会社ユープラス	
今後も引き続き、皆様に使って頂けるアプリケーションの提供を目指して行きたいと思えます。	K-01	株式会社フィート	
国の公的研究機関の役割は、最先端の優れた研究成果の成果展開、ビジネスになりにくい福祉等の分野における社会貢献にあると考えております。今回の展示を始め、アプリの一般公開によって得られる知見をもとに、健聴者と聴覚障がい者の両者にとって更に便利なアプリの開発を推進していきます。この「SpeechCanvas」も最終的には、NICTが開発し、事業会社に移管した「聴障者と健聴者とのコミュニケーション支援アプリ『こえとら』」のように我々の手を離れ、研究開発成果が本当の社会展開につながっていくことを目指します。	K-02	ユニバーサル コミュニケーション研究所	

障害者自立支援機器等開発促進事業

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠であるが、障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化）が進んでいない状況にある。こうしたことから、

- ア) 産・学・障害者の知識・技術を結集し、個別具体的な**障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設ける**、
- イ) 開発中の機器について、ニーズに合ったものとなっているか**実証実験する場所を紹介する**、
- ウ) 各開発機関が行う**実用的製品開発化に要する費用の一部を助成する**

ことにより、機器開発分野への新たな参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図る。

ニーズとニーズのマッチング

開発者や研究者が持つ「ニーズ」と障害当事者や福祉事業所の職員等が持つ「ニーズ」のマッチングを目的とした交流会を開催

ニーズを持つグループ（ユーザー側）

障害当事者、家族
福祉事業所の職員等



実際に福祉機器を利用等した上で、機器の改善点や機器に関するニーズ等を開発側に伝える。

ニーズを持つグループ（開発側）

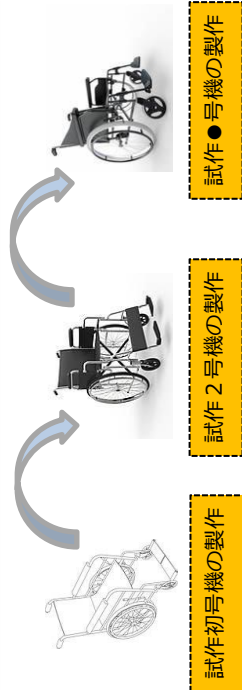
開発企業、大学の研究者、リハ研究所等



福祉機器の展示・デモンストレーションのほか、障害当事者との意見交換を実施。

障害者のニーズを的確に捉えた
障害者自立支援機器の開発着手

開発着手～試作～実証実験～製品化



実用的製品化

開発された新製品等を公開し、障害者等に普及

《障害当事者・障害関係団体等》

交流会開催に要する費用の助成（定額）

交流会開催後のフォローアップに要する費用の助成（定額）
※ 定期的・継続的な意見交換の場でのコーディネート、相談対応、実証実験の場の紹介等

実用的製品化開発に要する費用の助成（補助率1/2）

※ 研究段階を終え基本設計はできているが、試作機の製作までには至っていないものが対象

…ニーズ・ニーズマッチング強化事業（H26～）

…障害者自立支援機器等開発促進事業（既存事業）（H21～）

開発機器の一般公開に要する費用の助成（定額）

障発 0 9 3 0 第 1 号

平成 2 6 年 9 月 3 0 日

都道府県知事
各 指定都市市長 殿
中核市市長

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
(公 印 省 略)

障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズ
マッチング強化事業）の実施について

標記について、障害者のニーズを的確に反映した障害者の自立を支援する機器の開発を促進する観点から、機器開発分野への新たな企業の参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図るため、今般、別紙のとおり「障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズマッチング強化事業）実施要綱」を定め、平成 2 6 年 4 月 1 日から適用することとしたので通知する。

貴職におかれては、産業振興関係部局、管内市区町村、関係団体及び福祉機器開発関連企業等に対して周知を図るとともに、本事業の適正かつ円滑な実施が図られるよう、特段の配慮をお願いします。

(別紙)

障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズ マッチング強化事業）実施要綱

1. 目的

障害者の自立を支援する機器（以下「障害者自立支援機器」という。）の開発については、障害者自立支援機器等開発促進事業により開発を行う企業に対して、実用性評価の支援など適切な支援を進めてきたところであるが、開発された機器の中には、障害者のニーズを的確に捉えたものとなっていない実用性の低い機器も見受けられるところである。

このため、本事業は、民間企業等、学術団体等の研究機関及び障害当事者の知識・技術を結集し、個別具体的な障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設けるとともに、開発中の機器について、実証実験の場を紹介すること等により、機器開発分野への新たな企業の参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図ることを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、障害者自立支援機器の実用的製品化開発、普及に知見を有している民間事業者等（国及び地方公共団体を除く企業又は団体）であって、3. に規定する事業を行う能力及び体制を有し、その経理が明確かつ経営の安定性が確保されている法人とする。

3. 事業内容

（1）企業や障害者等が参加する福祉機器に関する交流会等の開催

障害者のニーズに沿った機器開発を促進する観点から、開発事業者や研究者（以下、「開発側」という。）が持つ「シーズ」と障害当事者、福祉事業所の職員等（以下、「ユーザー側」という。）が持つ「ニーズ」のマッチングを目的とした以下の要件を満たす障害者自立支援機器に関する交流会（以下「交流会」という。）を企画し、開催する。

- ① 当該交流会を企画する職員を1名以上配置すること。
- ② 2日以上で開催期間の交流会を1回以上開催すること。
- ③ 交流会には、開発側とユーザー側の関係者に加え、リハビリテーション専門職団体、福祉機器関連学会等、行政機関の関係者も参加すること。
- ④ 交流会においては、開発側とユーザー側が出会い、意見交換を行う場の提供、開発された障害者自立支援機器・試作品等の説明及びデモンストレーションを行うこと。
- ⑤ 交流会のテーマは、特定の分野に特化することなく、予め障害者自立支援機器の開発ニーズを収集・分類した上で、複数のブースを設けたり、分野ごとに異なる会場で

実施するなど工夫すること。

- ⑥ 年度末に当該年度の障害者自立支援機器等開発促進事業で採択された機器（開発途中の機器を含む。）及びこれまでに当該事業で開発された機器の一般公開の場を設けること。その際、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室とも緊密に連携の上、実施すること。
- ⑦ 多くの企業、障害者等の参加が得られるよう、地方公共団体等とも連携しながら、交流会開催に関する広報活動を行うこと。
- ⑧ その他、交流会の参加者等に対して障害者自立支援機器に関するアンケート調査を実施し、その結果を広く周知する等、よりよい障害者自立支援機器の製品化・普及に有用な情報の発信に努められたいこと。

（２）交流会開催後のフォローアップ

（１）の交流会の成果を着実に障害者自立支援機器の開発につなげるため、以下の支援を行うコーディネーターを配置し、交流会開催後も開発事業者等の希望に応じて必要な支援を行う。なお、当該コーディネーターは（１）の①の職員が兼務することとして差し支えないものとする。

- ① 定期的・継続的な開発側とユーザー側等との意見交換の場のコーディネート
- ② 開発側やユーザー側からの相談対応
- ③ 開発側に対する実証実験の場やモニター評価を行う障害当事者等の紹介
- ④ その他障害者自立支援機器の開発につなげるために必要な支援

（３）成果の報告

本事業の実施団体は、（１）及び（２）の事業の成果をとりまとめ、国へ報告するとともに、その内容を公表するものとする。

４．国の補助

国は、本事業に要する経費について、別に定める交付要綱に基づき、予算の範囲内で補助するものとする。

５．事業採否の決定方法

本事業の実施団体は、別に定める評価委員会における事業の評価を踏まえ、予算の範囲内で決定するものとする。

平成 2 6 年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業報告書
(障害者自立支援機器等開発促進事業)

平成 2 7 年 3 月	発行
発 行 者	公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823	
東京都新宿区神楽河岸 1 番 1 号	セントラルプラザ 4 階
TEL 03-3266-6880	FAX 03-3266-6885

この事業は、厚生労働省から平成 2 6 年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。